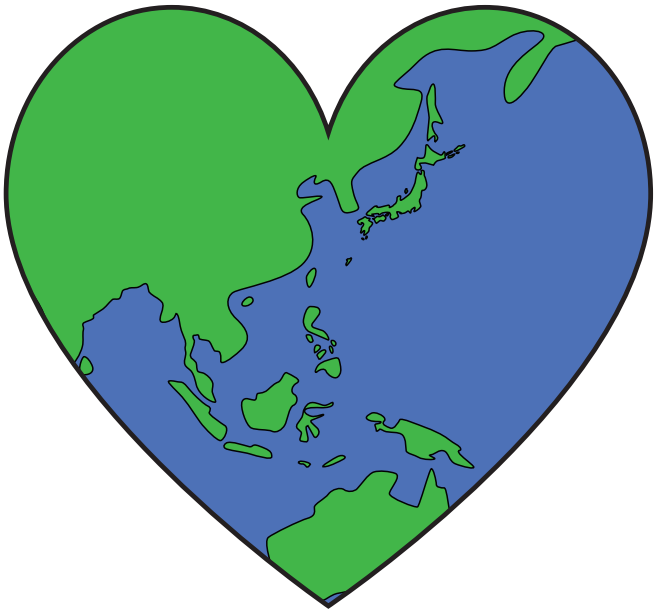
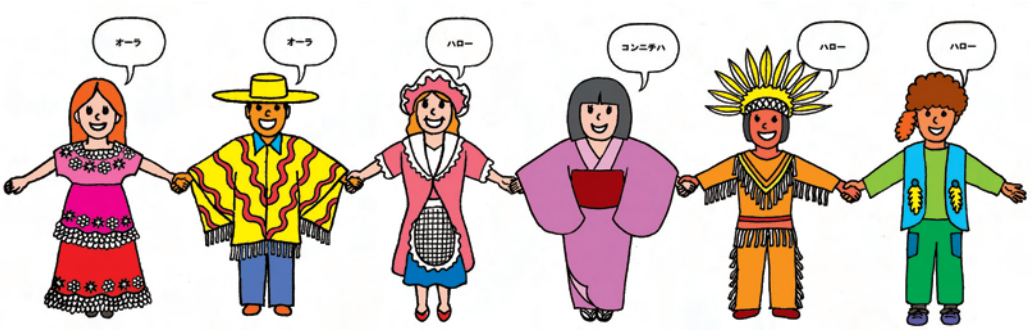
未来の大人たちのために、今できること
放課後子どもプラン

子どもの自発性や創造性を高め持続発展教育（ESD）を推進する活動モデルづくり

本 編

平成 20 年度　文部科学省委託研究事業『総合的な放課後対策推進のための調査研究』
放課後活動支援モデル事業　報告書





はじめに

財団法人五井平和財団は、平成20年度文部科学省より総合的な放課後対策推進のための調査研究「放課後活動支援モデル事業」の研究を委託されました。研究テーマは「子どもの自発性や創造性を高め持続発展教育(ESD)を推進する活動モデルづくり」で、日本政府やユネスコ（国連教育科学文化機関）が唱える「持続発展教育(ESD)の10年」に呼応する形で、これまでの実績を踏まえ、推進にあたっては、全国15カ所の「地球っ子広場」の教室の協力を得て、活動モデルの構築を図ると共に、持続発展教育(ESD)の更なる発展や普及に貢献すべく努力いたしました。

平成17年に「地域子ども教室推進事業」の一環として始めた「地球っ子広場」において、すべての人々が安心して暮らせる現在と未来のために、子どもたち一人ひとりが地球規模で物事を考え、自分の出来ることから行動を開始するための自立、調和、地球理解、愛と平和の4つを活動の柱とするプログラムを数多く開発・実践して参りました。

当財団は、大人は教育の大きな方向性を定めつつも、子どもたちの自発性、創造性を重んじ、子どもたちの求めに応じた適切な支援を行う役割に徹するべきであると考えております。教育（educate）とは、単に知識を教え込むことではなく、ラテン語の原義の如く「能力を導き出す」ことであるとの基本認識の上に立ち、各教室のスタッフは、常に子どもたちに愛の心で接し、それぞれが内に秘めている無限の能力を引き出すことに全力を注いで参りました。子どもたちが将来の社会の持続発展に欠かせない高い価値観や倫理観を自然に身につけていけるよう、創意工夫を重ねております。

本報告書では、平成20年度の活動報告に加えまして参考情報として、各地の教室にて子どもたちをお預かりし実践する中で効果の挙がった活動モデルも数多く収録いたしました。これらは、全国の他地域の放課後子ども教室においても、必ずやご活用いただけるものと考えております。

なお、多くの教室で、保護者や地域の方々の協力を得ながら障害児を積極的に受入れ、年間を通して、健常児達と同じ活動プログラムに取り組むことが出来ました。

最後になりますが、本研究事業の実施にあたり、様々な場面でご指導・ご鞭撻をいただきました文部科学省を始め、保護者や学校、各地の教育委員会や福祉部局、企業、NGO・NPO、子育て支援団体等、ご協力をいただきましたすべての皆様方に心より厚く御礼申し上げます。

平成21年3月10日

財団法人 五井平和財団

年次テーマ：子どもの自発性や創造性を高め 持続発展教育（ESD）を推進する活動モデルづくり

◎本編・目次

はじめに
01　目次
02　**持続発展教育（ESD）が意識を変える！世界を変える！**
特筆　国連「持続発展教育（ESD）の 10 年（2005 ～ 2014 年）」
06　**これまでの歩み**
08　**「持続発展教育（ESD）」を主要テーマとした 委託研究の実際と成果の発表会**
全国レベルでのシンポジウム
14　**各地域での「オープンスクール」**
①だて　②五井
③品川　④世田谷
⑤自由が丘　⑥小金井
⑦川崎　⑧くりのこ
⑨新潟　⑩ふじ
⑪甲陽園　⑫ヒロシマ
⑬福岡　⑭鹿児島
23　**「持続発展教育（ESD）」は「21 世紀の人づくり」**
26　**全世界からの英知の結集 ～ ESD の包括的理解のために**
28　**委託研究推進にご参加下さった皆様の声**
31　参考資料　放課後活動支援モデル事業 実施体制
32　世界規模で広がるメソッド展開と地球っ子精神

●本報告書には、附属編「活動アイデア＆マニュアル集」が共に掲載されています。
本編と併せてご活用下さい。

財団法人 五井平和財団
〒 102-0093　東京都千代田区平河町 1-4-5　平和第 1 ビル
TEL:03-3265-2071　FAX:03-3239-0919　E-mail:kids@goipeace.or.jp
http://www.goipeace.or.jp
http://www.earth-kids.net（地球っ子広場）

持続発展教育（ＥＳＤ）が意識を変える！　世界を変える！

二〇〇八年（平成二十年）度、五井平和財団では「子どもの自発性や創造性を高め持続発展教育（ＥＳＤ）を推進する活動モデルづくり」をテーマとして文部科学省よりの委託研究事業に取り組みました。

はじめに持続発展教育（ＥＳＤ）に関する理解と認識の共有を計りましょう。

持続発展教育（ＥＳＤ）とは何でしょう？

なぜ必要なのでしょう？私たちに何が求められているのでしょう？

持続発展教育（ＥＳＤ）とは、持続可能でよりよい社会を築いてゆくための「人づくり」です。現在、地球が抱える気象変動（地球温暖化）、環境の劣化、種の絶滅、エネルギー・資源の枯渇、極度の貧困、食糧、紛争、核の危機など、様々な問題を今のまま放置し続けていたらどうなるでしょう？

例えば、有限な資源である石油・石炭などの化石燃料を消費し続け、二酸化炭素を排出し続け、戦争や紛争をし続け、樹木を伐採し続け、……。つまり人類が今のように勝手に行動し続けた場合、十年後、二十年後、三十年後における地球の未来は、極めて悲観的であると言わざるを得ません。非常に多くのデータからして、今のままの人類社会の持続は不可能なのであって、最近では誰しも、その一端を様々な気象変動から直接に感じざるを得ない状況になってきました。

ですから持続不可能な状態にならないように、回復ができない状態に至る以前に、国も企業もＮＧＯも個人も、地球人類全員があらゆる分野において、様々な問題・課題を解決し、この危機を乗り越えるための方針、取り組み、行動を全開することが必要なのです。

持続発展教育（ＥＳＤ）とは、人類が生き残りをかけて総力を結集すべき壮大な取り組みであり、一切の先延ばしも失敗も許されない歴史的重要案件なのです。

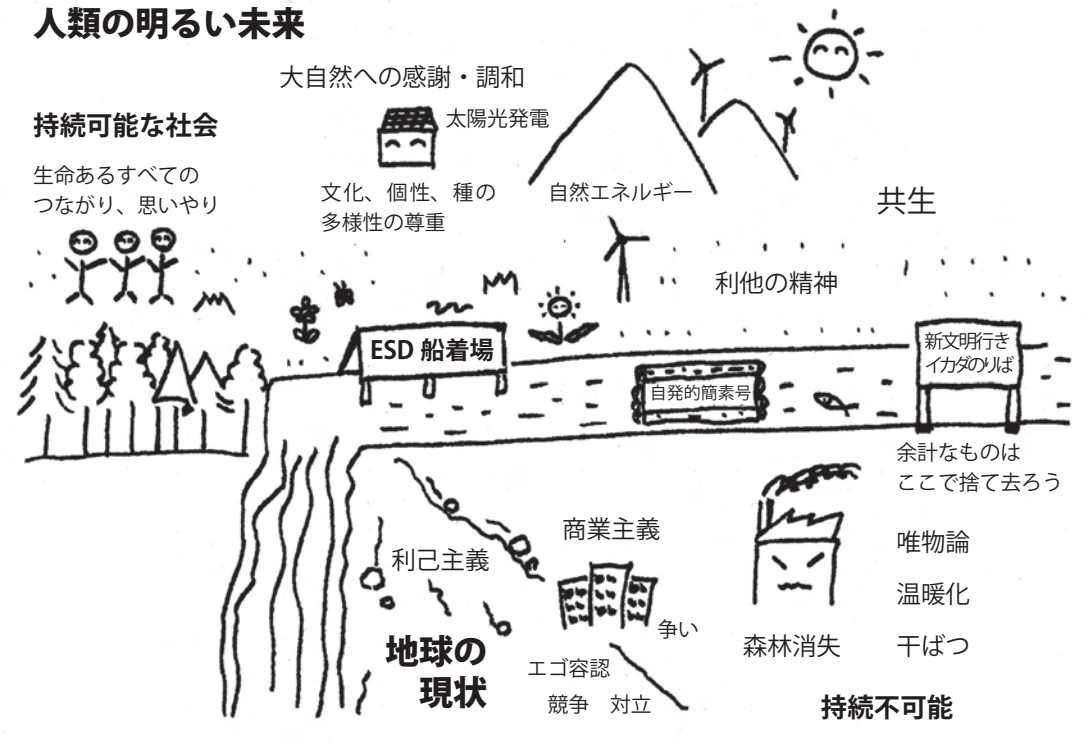
持続発展教育（ＥＳＤ）の十年　二〇〇五～二〇一四年

二〇〇二年三月、南アフリカのヨハネスブルクに於ける、第二回地球環境サミットにおいて、日本国政府は民間と協力のもと、「持続発展教育（ＥＳＤ）の十年：二〇〇五～二〇一四年」という国際的な取り組みを提案しました。これは直後に開かれた国連総会において、満場一致で採択され、現在ユネスコによる主導のもと全加盟国を挙げての取り組みが推進されています。ユネスコでは、「持続発展教育（ＥＳＤ）の十年」の成功を、最優先課題の一つとして位置付けており、各加盟国もこの方針を支持し、二〇〇八年度、日本では大胆な教育基本法の改定が図られ、あらゆる教科学習の中に、ＥＳＤの要素（ＥＳＤマインドと、実際に地球を維持発展させるに必要なスキル、それら両方の習得）が盛り込まれ、二〇一一年には完全実施される運びとなっています。二〇〇八年七月のＧ８においても、先進諸国首脳たちより「持続発展教育（ＥＳＤ）の十年」の成功に向け、資金面を含めた積極的な協力をすることが謳われています。

二〇〇九年・二〇一〇年の二年間は、「持続発展教育（ＥＳＤ）の十年」の中間年に当たることから、後半年に向けて全加盟国の足並みをそろえ、全人類がＥＳＤに取り組み、人類社会の大変革に成功するための本格的最終計画に向けて、諸般の見直しが図られています。

二〇〇八年十二月には東京の国連大学において、文部科学省、日本ユネスコ国内委員会、ユネスコ、財団法人ユネスコ・アジア文化センター主催の「ＥＳＤ国際フォーラム二〇〇八」が開催され、本冊子が上梓される二〇〇九年三月には、ドイツのボンにおける国際会議でその成果が発表され、まさに惑星地球を挙げてのＥＳＤへの取り組みが進展中です。

ESD イカダ「自発的簡素号」に乗ろう！



確認し合おう！大切なこと！

認識

今までの物質偏重、エゴ是認の文明の流れの先は
巨大な滝となって持続不可能な終えんを迎えるに決まっている。
ESD イカダ「自発的簡素号」に今すぐ乗って
持続可能な側に渡ることが絶対に必要なのだ。

選択

今こそ流れを離れるラスト・チャンス。
今までの唯物的観念、物質偏重の価値観、商業主義を捨て去り、
全員が持続可能な、新しい価値観を実践する山を登ることだ！
大きな流れを渡ろう！　チェンジ！

コミュニケーション

ESD を通じてこの状況認識と、正しい選択の在り処をまず私たち
が理解して、それを全人類に「自分ごと」として受け入れてもらい、
行動に移せるようになるまで、それぞれに最大限の努力をしよう。

愛

子どもたちの未来は今、大人たちが率先して ESD イカダ
「自発的簡素号」に乗って対岸に渡るかどうかにかかっている。
今すぐ、イカダに乗って、持続可能な対岸に渡ろう！

ESD のなすべきこと　それは全人類のミッション！

～持続発展教育 (ESD) の 10 年を成功させましょう！～

地球に起こっていることすべてを「自分ごと」として受け止め、適切に対応する
ESD マインドが何よりも必要です。

ESD マインドとは、

1．地球上の全ての人、動植物の生命はつながっている。その関係は活かし合いである。
2．すべての国と国、地域と地域は相補相関的につながっている。
その関係は活かし合いである。
3．地球の運命と自分の運命はつながっている。地球は唯一の住処である。
4．大自然と自分の肉体はつながっている。自分は大自然に生かされている。
5．地球と大自然はつながっている。だから自分は地球とつながっている。
6．地球も全生命もかけがえのない存在。
7．みんなで平和で調和した世界をつくりあげよう！

これらを心から理解することです。

地域単位の発想で、地球規模の行動を！

地球規模の発想を、国連や特定の国が提示したとしても、どんなリーダーが提起したとしても、この世界に宗教、政治、商業主義、利害関係や損得勘定、プライドや面子などの人類の心の分離要因が存在している以上、人々は遂に、近未来において持続不可能なカオス的急流を経て瀑布へと転落していくことは、現状を放っておけば、火を見るより明らかである。大切なのは各国各地域に調和した発想で、行動はしっかりと持続発展のつぼを押さえたＥＳＤに取り組み行動していくこと、最先端の科学的な事実、最新の意識研究の成果をも共有して、精神と物質が調和した、持続可能な生き方を自ら選択するのだ。

ＥＳＤでは、従来の細分化された研究・学問を再統合して、最先端の事実を包括的に理解できるような情報の共有と、それを人類全員の意識レベルの変容に至らしめるまでの、教育の努力が必要不可欠！人類が歴史的な意識変革を遂げ、新しい持続可能な文明に推移するまでに残された時間は少ない！

今こそ、人類の英知を結集して、ＥＳＤの十年の成功に心をそろえるべきときなのだ。すぐにでも取り組むべき行動のステップは、次のような精神的作業から始まる！

人類が共有すべき明るい未来社会のイメージの明確化

その明るい社会を達成するための人類が共有すべき徳目の整理と明示、明確化

研究・学問・教育の再統合による包括的理解・認識を醸成するための努力

それを最大限自分ごととして理解してもらうための啓蒙・啓発を含む教育的努力

唯物論、商業主義の混じらない純粋な人類愛、地球への感謝の醸成

ＥＳＤに取り組む関係者に伺いました。
あなたの未来はどんな世界ですか？

- 太陽光エネルギーを使ったエコ・カーが主流となっている世界
- 太陽だけでなく地熱、波力・風力などの自然エネルギーが主流となっている世界
- よいニュースを積極的に流すメディアが注目され、報道メディアに方向転換が起こっている世界
- 子どもたちや高齢者が安全に生活できるように、危険な乗り物と完全に分離された歩行者専用道路が当たり前になっている世界
- 地産地消が進み、安全なものが食べられるようになっている世界
- 唯物論と商業主義が打ち倒され真理・真実がゆがめられることのない世界
- エイズやマラリアなどの特効薬ができ、感染がなくなるのみならず、意識が変わって、わざわざ病気を生み出すことのない世界
- もはや商品を売るための企業広告には誰も全く興味を示さない世界
- 衣・食・住の関連分野からは、あらゆる競争原理が完全に排除されている世界
- 競争は人類を幸福にしないことが知れ渡り、共生こそあるべき姿として実践されている世界
- かえるや鳥の復活など生態系の復活・持続・発展こそが政治・行政の成果を計る重要基準となっている世界

★子どもたちからもメッセージが届きました。

- まちから
  ごみがなくなるように
- 魚さんが気持ち
  よく泳げる海でありますように
- どうぶつと
  お話できるようになりたいな
- きれいなうみで
  さかなやたこやいかが生きてて
  よかった！
- おいしい
  やさいをそだてて、
  みんなでたべられますように！
- ティッシュや
  トイレットペーパーは
  すべて木でできているから
  全部大切にします

さあ、全世界で、人類皆でＥＳＤに取り組みましょう！
今、一人ひとりが愛と、真実と、
新しい価値観を共有し、持続可能な生き方を伝える
メッセンジャーになりましょう！
地球を愛し、生き物を愛し、人類を愛し、全ての生命を愛する、
そんな惑星への大変革を見事に遂げましょう！
ＥＳＤの十年が完了する、二〇一四年末までに……

では、次ページから、
私ども五井平和財団が推進してきました地球っ子広場の、
ＥＳＤへの取り組みをご紹介いたします。

これまでの歩み －五井平和財団の教育・研究－

五井平和財団は、1999 年の設立以来、平和教育の分野においては、未来の担い手としての子どもや若者の役割を重視し、心の平和、生命の尊重、国際理解を育む青少年のための各種教育プログラムを企画・推進して参りました。また、講演会やシンポジウムの開催や平和に関する学際的な調査・研究活動を通じて、各専門分野の英知を結集し、真に調和した世界を築いていくための新しい価値観や意識、生き方について皆様と共に考えて参りました。それが下記の表ですが、ここに至り、これは ESD の精神へと一つにつながっていることがわかってきました。

五井平和財団が目指す教育

■教育理念

地球生命共同体の一員としての責任の自覚と使命の遂行

■教育目標

右記理念の実現に資する人格と能力の育成

■子ども観

子どもは、地球生命共同体の明日を担う尊い存在であり、地球生命共同体の一員として愛、調和、感謝の意識を育むべき存在である

■教育観

大人は、「子どもを教育しなければならない」と考えるが、これは一種の錯覚である。子どもの存在そのものの価値を尊敬し、本来、子どもが持っている能力と直観力をそのまま認め、全面的に受け入れさえすれば、子どもの素晴らしさが湧き出てくるのである

別の言葉で言えば、生命・意識というレベルにまで視点を深め、生きることの本質を、皆で学び合うこと、特に大人も子どもから純粋性、素直さ、無邪気さ、明るさ、英知などの素晴らしさを学び取り共に高め合うことが二十一世紀の教育には必要である

■教育価値

一　生命の尊厳
二　すべての違いの尊重
三　大自然への感謝と共生
四　精神と物質の調和

■行動規範

三つのお約束
一　人に迷惑をかけない
二　自分のことは自分でする
三　あまった力で、人の手助けをしよう

■教育実践

三つのお約束でいう「人」は、身近な家族・友人から人類すべてまで広がる迷惑をかけてはいけない相手としての「人」、手助けする対象の「人」とは、「人類すべて」である、と自然に思える程に至れば、それは地球規模の意識に到達したということである

そのために、人種、民族、宗教、政治、世代、肉体の状況などすべての違いを超えて、心を開き、和気あいあいと交流し、遊びあい学び合う中で、信頼感を醸成し、体験的に学ぶことを教育実践の中心とする

プログラム構成の基盤としての４つのねらい

五井平和財団では、地球っ子広場（＝放課後子ども教室）を推進し、子どもたちのありのままの生命を尊重しつつ、活動を通して広い視野と思いやりの心を自然に身につけることを目指して、４つのねらいを定め、プログラムの企画・開発を行いました。

自　　立：自分のことは自分でしようという意欲を育てます
調　　和：コミュニケーションや協力を進んで実行する力を育てます
地球理解：世界に開かれた視野と、地球への感謝の心を育てます
愛と平和：人のため、社会のため、平和のために役に立ちたいと願う心を育てます

五井平和財団の持続発展教育（ＥＳＤ）への取り組み

●これまで、当財団ではＥＳＤの発展に資する様々な事業を展開して参りました。一九九九年には、様々な国の駐日大使館で平和意識啓発の集いを開き、各国の子どもたちにも参加を呼びかけ、平和交流を実施しました。

●二〇〇〇年には『生命憲章』（本報告書附属編「活動アイデア＆マニュアル集」三十一ページ参照）を発表すると共に、そのキーワードをテーマとした「国際ユース作文コンテスト」を開始しました。このコンテストは、ユネスコの「平和の文化」という考え方に賛同しており、現在ではユネスコとの共催事業となっています。

●二〇〇〇年の九州・沖縄サミットの折には、全国約六万人の児童・生徒より平和メッセージを集め、各参加国の元首などに届けました。

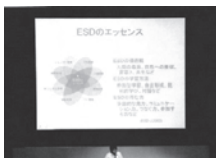
●二〇〇一年三月には、ロシア人学校と日本の公立学校の交流により「新しい国際理解教育」を提案。同年十月からは、小中高校生を対象とした「駐日外交官による交流プロジェクト」を、約九十ヵ国の駐日各国大使館のご協力のもと、開始しました。現在では、大学における国際関係論や平和学の講座へと発展しています。

●「総合的な学習の時間」の本格実施に向けて、数々の「国際理解教育」の形を提案し二〇〇二年には国連「国際エコツーリズム年」、「国際山岳年」に関する教育イベントを開催。

二〇〇三年からは、小中学校における国連「国際平和デー」への取組みを呼びかけ、世界に目を開いた国際理解教育・平和教育・人権教育・環境教育などを提案しました。

●二〇〇四年七月には「青少年のための夏休みフォーラム」を開催し、野外活動を通じて自然とふれあい、環境に思いを向ける複合的・総合的な学習に着手。数種類の活動モデルを試行しました。

●ＤＥＳＤ（国連「ＥＳＤの十年（二〇〇五～二〇一四年）」）のスタート年にあたる二〇〇五年七月には、「ＥＳＤの十年記念～未来をつくる教育を考えるシンポジウム」をＥＳＤ-Ｊの阿部治氏などをパネラーとして開催しました。



●また、二〇〇五年に始まった「地球っ子広場」では、当初よりＤＥＳＤの趣旨に賛同し、ＥＳＤの諸課題に取組み、以来、ボランティアの方々の協力のもと、包括的地球理解、心と生命、平和、環境、国際理解、人権、地域の活性化、伝統文化の再評価や復活等をテーマにしたプログラムを開発し、ＥＳＤに取り組んでいます。

●二〇〇七年度には、文部科学省より「国際感覚にあふれ平和を愛する地球人を育てる」活動モデルづくりの研究を委託され、全国で教育・研究の両面から取り組みました。

持続発展教育（ＥＳＤ）を主要テーマとした委託研究の実際と成果の発表会

全国レベルでのシンポジウム

本委託研究事業では、全国各地の教室の特色を生かし、それぞれにＥＳＤという研究テーマを通じてスクリーンし直したメソッドを実践しました。その成果を、関係者をはじめとする皆様と共有し、また持続発展教育（ＥＳＤ）の活動モデルをより具体的に提示することを目的とし、平成二十年十二月十四日（日）女性と仕事の未来館ホール（東京都港区）において「地球っ子広場シンポジウム」を開催しました。ＥＳＤにご関心のある初等教育・子育て支援関係者の、また社会・学校・企業などの様々な分野からＥＳＤ関係者の皆様にお集りいただきました。会場では、本事業に参加した全国十五カ所の地球っ子広場から様々な報告がなされ、本研究に関する情報の共有が図られ、実践に関する理解が深まり、貴重な方向性が示されました。

ここでは、同シンポジウムで発表された歌や楽器演奏、演劇などの多様な表現、またディスカッションを振り返り、社会教育におけるＥＳＤの実践についてまとめました。

全国各地で持続発展教育 (ESD) を実践する地球っ子広場コーディネーターの皆さん

平成 20 年度　文部科学省委託研究事業『総合的な放課後対策推進のための調査研究』

―地球っ子広場シンポジウム―

プログラム

第１部

13：30	開会挨拶	上村　恒司（五井平和財団）
13：40	地球っ子広場スタッフ紹介	
13：50	活動報告	相澤　弘美 (地球っ子広場・川崎　コーディネーター) 他
14：10	コカリナ演奏	地球っ子広場・くりのこの子どもたち
14：15	『地球っ子からのメッセージ』	地球っ子広場・品川と五井の子どもたち
14：55	第１部終了	

休　憩

第２部

15：10　委託研究事業実践者による公開座談会

照井　一子（地球っ子広場・五井　コーディネーター）
池田多鶴子（地球っ子広場・小金井　コーディネーター）
山浦　弘子（地球っ子広場・くりのこ　コーディネーター）
福岡　妙子（地球っ子広場・甲陽園　コーディネーター）
土井奈保美（地球っ子広場・ヒロシマ　コーディネーター）
高島　節子（地球っ子広場・福岡　コーディネーター）
内村真喜子（地球っ子広場・鹿児島　コーディネーター）

＜ファシリテーター＞
中山　樹（五井平和財団）

16：10　まとめ　　出口　隆之（五井平和財団）
16：30　閉会

日　時　平成 20 年 12 月 14 日（日）　13:30 ～ 16:30
会　場　女性と仕事の未来館 ホール（東京都港区）
テーマ　子どもの自発性や創造性を高め持続発展教育 (ESD) を推進する活動モデルづくり

発表1

感謝の心を引き出すプラン

川崎教室からは、独創性あふれる様々なプログラムの報告がありました。教室の子どもとスタッフによる手話ソング演奏があり、地元のボランティアフェスタで参加者の人気ナンバーワンになった塗り絵（※）が披露されました。同教室は、使用済みペットボトルやどこにでもある砂利・ストローなどを生かした手作りリサイクル楽器を創り、演奏して、「全国手づくり楽器アイデアコンテスト'08」に出場、教育委員会賞を受けています。

コーディネーターの相澤さんは、ＥＳＤ成功の第一歩は、子どもたちの心から「感謝の心」を引き出すことであると言い切ります。エコに焦点を合わせた活動も、その原点に「ありがとう」の言葉があってこそ魂が入るのです。例として、「Ｔシャツのリフォーム」プログラムについて、新しいアイデアでＴシャツが甦っていく喜びや出来上がったものを着る時に感じる気持ちなど、子どもたちの内に感謝の心が育まれていく様子が生き生き語られました。

※オリジナル塗り絵については五井平和財団「地球っ子広場」事務局までお問い合わせください。

地球っ子たちが手話を教える団体の協力により覚えた、手話ソング「友だちになるために」を披露。「ありがとう」の精神（こころ）を歌にのせて響かせていく試みです。

自分の周りにある、「ありがとう」と思える対象を描いて、「感謝の心」を引き出す方法。子どもたちは具体的な“もの”だけでなく、“知恵”“バランス”といった抽象的なことに対象を広げて描くことが出来ることが報告されました。

発表2

子どもたちのコカリナ演奏に大喝采

長野県のくりのこ教室からは、ふたりの地球っ子が駆けつけ、コカリナ演奏で心温まる「アメージンググレイス」を披露してくれました。同教室では、茶の湯、米作り、投扇興（とうせんきょう）など、多彩なプログラムが実施されていますが、その中でも地元の木材を生かして作られたコカリナの演奏は、他の人と調和し、ハーモニーを生む喜びという貴重な体験を積むことができます。日頃からバイオリンとの合奏など、外部の演奏家との交流も楽しんでいるそうです。シンポジウムでは、アンコールで「サザエさん」も演奏され、子どもたちが吹く、自然な素材と純粋な子どもたちが織り成す癒しの響きに会場は魅了されました。

コカリナとは

ハンガリーの民族楽器が前身で、1998 年の長野・冬季オリンピック大会の際、道路建設のために伐採されたイタヤカエデの木を生かして日本の木工家たちの手で試作され、開会式では地元小学生たちが演奏したことで一躍全国に知られるようになりました。自然環境を守るシンボル的な楽器として注目されています。

気持ちをひとつにして、いい音を響かせました！

発表 3

『地球っ子からのメッセージ』

東京の品川教室と千葉県の五井教室の子どもたちは、歌と、台詞、演奏で構成された創作劇『地球っ子からのメッセージ』を発表しました。遠隔地のコラボレーションにつき、合同練習の時間は少なかったにも関わらず、みんなが互いに支えあい、協力し合う素晴らしい舞台となりました。

品川教室では日頃から演劇を通して、自分の中にある可能性に自ら気付き、考え、発表し行動していけるように実践を重ねており、新しい友だち、将来の夢を見つける場にもなっています。また、五井教室では、毎回必ず「三つのお約束」を子どもたちみんなで復唱して徳目を共有することをベースに、活動にはゴミ拾いや感動的な読み聞かせを取り入れ、心を育むプログラムを実施しています。劇中でも子どもの言葉で語られた「輝く地球を取り戻そう」という歌に、生命（いのち）を大切にするやさしい思いが表現されています。どちらの広場でも子どもたち一人ひとりの話をじっくり聞くことを、いちばんの原点としています。

フィナーレはみんな揃って「キラキラ星」をハンドベルで演奏。会場はいっぱいの感動に包まれました。

木のしゃもじによる自然の音でリズムを取りながら、「地球っ子の子どもたち」を合唱

「地球っ子の子どもたち」（歌詞）

You are so wonderful！！
We love you all！
そう！ぼくたち　みんな　サイコーのキズナ！！
うたって！　わらって！　おどって！
いつだって　ここは　みんなのよろこび

めとめが　あったときから　きみとぼくは　ともだち！
キラキラ！かがやくひとみ　えがおの　ほほえみ

たのしい　ゆめと　みらい！　きみの　こころに　とどくよ！
てとてを　むすびあわせ　キズナのサイン！

さみしいときはいつも　ここにくれば　いいんだよ！
ひとりじゃないんだよ　てとて　さしのべるよ

きみの　ぜんぶがステキ！　だから　もっと　かがやいてよ！
あかるい　みらいへ　いっしょに　とびだそう！

子どもたち自身の言葉やイメージをちりばめた歌は、みんなの宝もの。作曲は中野文子先生、作詞は子どもたち

舞台では、みんなで創りあげた劇中のシーンが演じられました。

あらしの夜に

オオカミのガブとヤギのメイが、幾多の困難を乗り越え、本当の友情を分かち合っていく物語。（木村裕一原作　講談社刊）

ガブとメイが出会う感動のシーン

大人も地球っ子、
みんなが参加する楽しさ

「大人の階段を五つくらい上がったみたい」という感想がお祖母様から。

得意のフラダンスで、
かわせみの美しさを表現

よだかが懸命に南の星に訴えるシーン

振り付けも衣装も子どもたちが創作したオリオン座のダンス。

よだかの星

宮沢賢治原作の、真の幸福への心の叫びをつづった名作。生きる強さと可能性を訴えます。

「輝く地球を取り戻そう」

公園で行ったゴミ拾いを劇にしました。汚れた地球をきれいにするのではなく、元々はきれいで輝いた地球であるという発想を大切にしています。

みんなの合作「輝く地球」の
キラキラ・アート

ゴミ拾いのシーン

ハンドベルによる「キラキラ星」の演奏。子どもたちみんなが未来を担う輝く星

発表4

公開座談会

シンポジウム第二部で行われた座談会では、委託研究事業を推進中の地球っ子広場から七名のコーディネーターが登壇。実践を通じて得られた貴重な体験談や現場の様子などが、生き生きと語られました。

最後には、五井教室の照井一子さんが、マーガレット・ワイズ・ブラウンの絵本から「大切なこと」を朗読。「地球っ子広場は、地域の人々のご協力をいただきながら、子どもたちを無償の愛で包み、『あなたがあなたであること』を一番大切なこととして運営されています」と締めくくりました。

心が育つ広場づくり　照井　一子（五井）

元々地球っ子広場はＥＳＤそのものという側面があったのですが、今回は改めて持続発展教育（ＥＳＤ）というテーマに、白紙から取り組みました。まず、子どもとの心からの関わり合い、そして地球を大切にするＥＳＤマインドの醸成、このふたつを大きなポイントと考えました。そして子どもも大人も共有してゆく、大切な徳目はやはり「三つのお約束」です。いつか世界中の人々が「三つのお約束」（※）を知っている社会になったら、世の中は大きく変わっていくのではないでしょうか。

読み聞かせの本を選ぶいちばんの基準は「心が育つもの」。誰もが何でも言える自由な雰囲気の中で、子どもたちが身を乗り出してくるような読み聞かせを心がけています。

※「三つのお約束」については本報告書附属編「活動アイデア＆マニュアル集」二ページをご覧下さい。

「エコと食育」をテーマに　池田　多鶴子（小金井）

調理室で料理作りを日常的に取り入れて教室を運営しています。いつの間にか「楽しい」と口コミでひろがり、たくさんの子どもたちが通ってきてくれています。今回のテーマは親子で一緒にでき、気負わずにエコのことを体験的に理解出来ると好評で、環境を意識した地域の活動としての第一歩を踏み出すことが出来ました。また、近くの大学から教員の卵である学生さんたちがお手伝いに来てくれるおかげで、子どもたちと大学の敷地内で自然の中を歩き、生き物と触れあい、いのちの大切さを体験することも実践しています。この教室を、地域の草の根運動として続けていかなくてはと思っています。

地域の方々との触れ合いを通して　山浦　弘子（くりのこ）

二十一世紀の教育はまず、唯物論や二元論、競争といった固定観念を取り去ることが大切と思っています。子ども同士がケンカをしても、押さえたり、叱ったりしません。「やかましいから廊下に出てやりましょう」と言うと、どうしたらよいか自分たちで考えるようになり、調和が生まれるものなのです。

教室のある須坂市は自然に恵まれた地域なので、農業体験を通して地域の方々との触れ合いもしています。田んぼをお借りし、米作りには農家の方たちが協力してくださっています。米作り、味噌作り、しめ縄作りなどプログラムも多様です。また、最近は投扇興（とうせんきょう）という江戸時代に生まれた遊びを、保存会の方たちに手ほどきをいただいてやっています。茶道も先生に来ていただいています。地元の皆さんのお知恵を拝借し、みんなで楽しむ中から、生命（いのち）が輝いていけるのではないかな、と思います。

ジュニア・リーダーの試み　福岡　妙子（甲陽園）

教室開設以来四年目になる今年度は、五十五名の子どもたちの内十二名が小学校五～六年になり、素晴らしく成長しましたので、彼らを「ジュニア・リーダー」に育てる課題に取り組みました。自発的に人の立場を思いやり、「余った力で人の手助けをする」（※）段階に来たのです。彼らは自ら、縄跳びの縄をまわす役、道具やジュースを配る役にまわり、一段と成長してくれました。ＥＳＤの観点からも、やさしく親切にする気持ちを表し続けていったら、美しい地球の存続に貢献できるのではないでしょうか。

またひとつの試みは、子どもたち念願のお泊り体験でした。兵庫県山間部の、指導者の実家のある村を訪ね、炭焼きをしている村の皆さんに歓待を受け、心を通い合わせる得がたい体験が出来ました。

※地球っ子広場の「三つのお約束」の三つ目に該当します。

持続発展教育（ＥＳＤ）を楽しく、より体験的に　土井　奈保美（ヒロシマ）

都市部にあっても、自然に触れるチャンスを作るようにしています。ある時どんぐりをいっぱい拾って、みんながそれを手にひとつずつ握り、「いつかどんぐりの木が」という絵本の読み聞かせをしました。生命（いのち）が次にバトンタッチされていく大自然の営みをわかってもらいたいと工夫したプログラムでした。

地域協力者の方々との出会いに恵まれ、図書館の防音室をお借りしての読み聞かせや、市の環境サポーターの方のご協力でＥＳＤのプログラムも実施出来ました。若いスタッフも頑張ってくれています。子どもたちの楽しいという声が響くふれあい教室を実践しています。

大自然の中で貴重な体験　高島　節子（福岡）

小学校から中学までの子どもたちが、地元の方たちやプロリーダーの方たちに導かれて田植えや稲刈り、造形、調理、自然散策と豊かな時間を過ごしています。田植えの日のこと、みんなが川で長靴を洗っていたらある子どものお箸が川の中に落ちて、取れなくなってしまったことがありました。するとプロリーダーの方が「大丈夫だよ」と言われ、木の枝を取ってきて巧みに拾い上げてくれました。「大丈夫！」このひと言でみんなの心が安らいだ、良い体験でした。

一人ひとりが自然の中で遊びながら何かをつかんでいくのです。保護者の方からも物事を自分のこととして考えるようになった、食べものを大切に扱うようになったなど、うれしいお便りが届いています。

「本物の森づくり」　内村　真喜子（鹿児島）

地域の方に山をお借りし、博物館の先生からご指導をいただいて、子どもを中心に「本物の森づくり」に挑戦しています。協力者の皆さんとの出会い、子どもたち、父兄の皆さん、スタッフ、そして自然や美しい森・・・すべてがひとつにつながっていることを、体験を通してみんなで感じています。葉っぱで笛を作ったり、近くの滝に行ったり、裏山で採ってきた野菜でごはんを作ったり、どの体験も宝ものです。

また、障害のあるお子さんたちがお母さんと一緒に初めて参加された時、本当に楽しくて、お別れするときには互いの声が聞こえなくなるまで挨拶の声が響いてみんなが感動しました。このような、自然の中で共にひとつになる体験を積み重ねていきたいです。

各地域での「オープンスクール」

本委託研究事業が行われた各地の「地球っ子広場」では、「オープンスクール」を開催し、その活動モデルを実践した指導者たちが持続発展教育（ＥＳＤ）という研究テーマに沿ったその取り組みの成果を発表しました。

これは、平成十二年十二月に行われた「地球っ子広場シンポジウム」に先行する形で、九月二十七日（土）に行われた川崎教室の「オープンスクール」を皮切りに全国十五カ所の広場で開催され、いずれも持続発展教育（ＥＳＤ）の方向性を示す実り多き発表となりました。

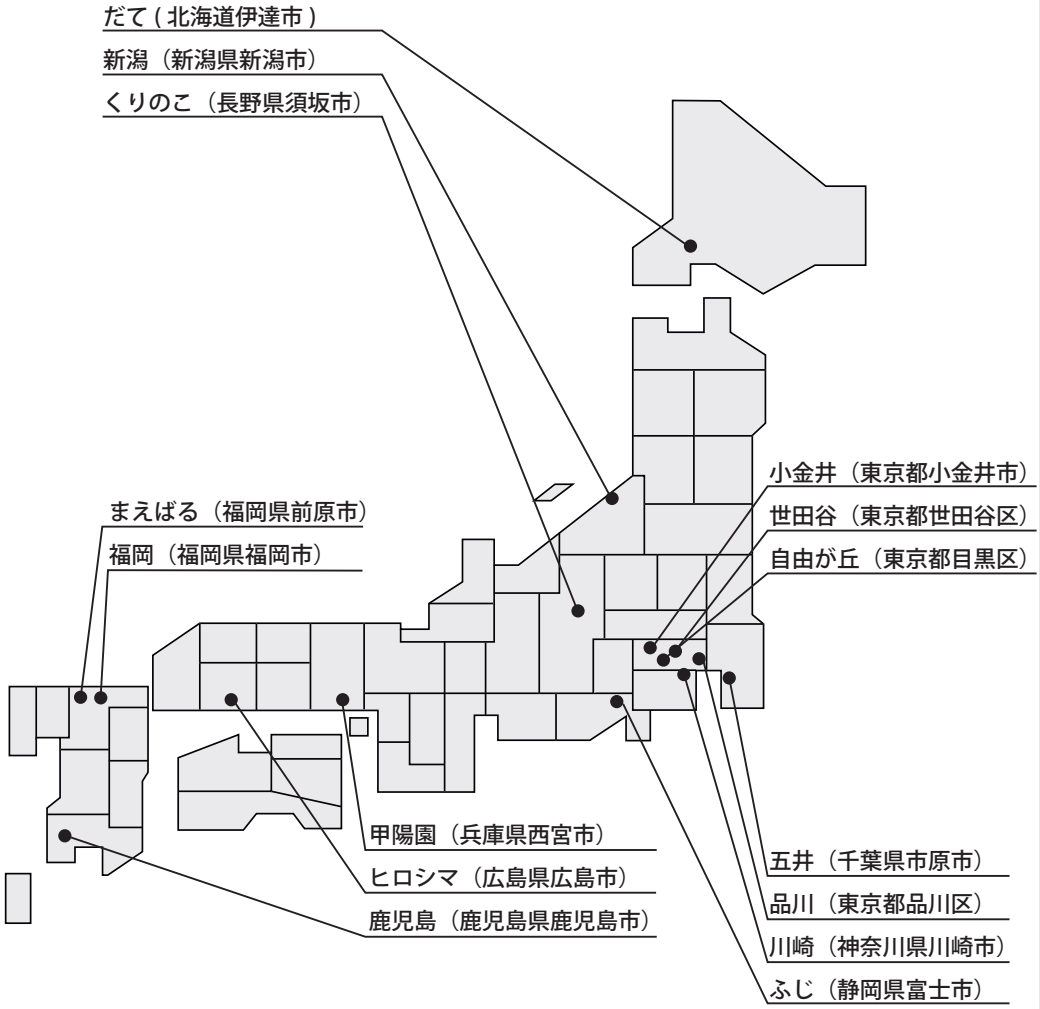
なお、本委託研究事業実施に際しまして、誠に多くの皆様のご協力・ご尽力を賜りました。

各実施地域の指導者であるコーディネーターとスタッフの皆様には、本事業推進の中心となってご尽力いただきましたことに深く感謝を申し上げます。また、「放課後子どもプラン」の教育部局、福祉部局の各位を始めとする行政、学校、子育て支援関係者、ＮＧＯ・ＮＰＯ、企業、ボランティアの皆様、また、地域協力者の皆々様に深く感謝を申し上げます。

● オープンスクール開催スケジュール（平成 20 年度）

開催広場名	開催日	代表者名
だて	10 月 11 日（土）	野田　祥美 田中　尚美
五井	11 月 22 日（土）	照井　一子
品川	11 月 30 日（日）	原田　久恵
世田谷	11 月 23 日（日）	関　　優子
自由が丘	11 月 22 日（土）	中野　恵子
小金井	10 月 18 日（土）	池田　多鶴子
川崎	9 月 27 日（土） 11 月 29 日（土）	相澤　弘美
くりのこ	11 月 23 日（日）	山浦　弘子
新潟	11 月 19 日（水）	井上　眞澄
ふじ	10 月 18 日（土）	山下　いづみ
甲陽園	11 月 12 日（水）	福岡　妙子
ヒロシマ	11 月 29 日（土）	土井　奈保美
福岡	11 月 22 日（土）	高島　節子
まえばる	11 月 29 日（土）	杉浦　美音子
鹿児島	11 月 24 日（月・祝）	内村　真喜子

本委託研究事業は、五井平和財団が全国展開する
地球っ子広場の 15 教室にて実施しました。



❶だてオープンスクール
「参加者全員で演じる創作劇」

十月十一日（土）

ひびきの村・ミカエルカレッジ（北海道伊達市）
コーディネーター　野田　祥美、田中　尚美

だて教室では、「未来への希望、勇気、仲間への信頼、感謝」をテーマにした創作劇に、会場に集まった二十八名の子どもたちと保護者、関係者の皆さんが全員で演じ、参加していくという楽しく充実したオープンスクールとなりました。「素晴らしい世界を自分たちが築いていくという意識」が、劇中の人物を演じ、みんなで力を合わせて目的を達成する体験を通して子どもたちの心の中に育まれました。

物語は、危機に陥った妖精の国が子どもたちの勇気ある行動によって救われるというもので、参加者は二グループに分かれ、前半と後半を演じました。子どもたちが妖精の国に行って紙に願い事を書き、それを天に届けるまでの冒険を通して、みんなが様々な体験をしていきました。「赤の国」「黄色の国」「緑の国」で出された課題を達成して手に入れた「魔法の石」を投げると、「火」の力が増し、願い事がついに天まで届き、最後にはみんなで庭にあるその「火」を囲んでフォークダンスを踊りました。

参加された皆さんから、「親子揃って楽しめました」とうれしい声が寄せられました。

赤の国

❷五井オープンスクール
「『ちきゅうさんありがとう』演劇を通してみんなの気持ちを演じよう！」

十一月二十二日（土）

サンプラザ市原9階和室（千葉県市原市）
コーディネーター　照井　一子

五井教室のオープンスクールでは、ＥＳＤのための活動モデルとして同教室が年間を通じて取り組んできた「心と生命（いのち）」をテーマにし、「輝いた地球をそのままに『ちきゅうさんありがとう』を劇を通して演じる」活動を発表しました。また今回は、翌十二月の「地球っ子広場シンポジウム」の発表リハーサルを兼ねていたこともあり、子どもたちにとっては、日頃の練習の成果を保護者や地域の皆さんに見てもらう良い機会となりました。

まず、本事業に参加している品川教室と共同制作した劇『地球っ子からのメッセージ』に出演する九名の子どもたちが、担当するパートを発表しました。みんな長い台詞も見事に覚え、自分たちのアイデアを盛り込んだ演技で、観に来られた皆さんに大きな感動を与えました。また、全員でハンドベルを演奏し、美しい音色も披露しました。

その後、別の部屋に場所を移し、新聞紙を使ったエコバッグや、輝いた地球をイメージするフェルト製の飾りを作り、完成品を壁一面に飾りました。会場には約四十名の参加者が集まり、子どもも大人も表現する喜びと一緒に創作をする楽しさでいっぱいになりました。

エコバッグ作り

❸品川オープンスクール　十一月三十日（日）
「みんなで力あわせて創り上げた演劇発表会」

冨士見台児童センター（東京都品川区）
コーディネーター　原田　久恵

この日は本事業に参加の五井教室との合同リハーサルも行われ、本番への期待が高まる素晴らしい発表の一日でした。

子どもたちが考えた台本による演劇の発表があり、二週間後の「地球っ子広場シンポジウム」のリハーサルを兼ね、熱の入った舞台が展開されました。

プロの女優である木村有里氏による演技指導があり、見ている側も思わずその空間に引き込まれてしまうほど素晴らしい時間でした。心地よい緊張感の中にも、楽しいギャグや笑いが盛り込まれ、会場は終始温かさに包まれていました。

子どもたちの武道やフラダンスも披露され、ダンスの振り付けも創作しました。インタビューシーンでは、子どもたちの率直な感想が語られ、人とのコミュニケーションの取り方や助け合いの尊さ、自主性などが活動を通して見事に育まれていました。

日頃から広場を一緒になって支えておられる保護者の皆さんも出演され、家族の絆が一段と深まりました。

劇「よだかの星」練習風景

❹世田谷オープンスクール　十一月二十三日（日）
「五感を使って自然に触れよう！遊ぼう！」

世田谷区船橋児童館（東京都世田谷区）
コーディネーター　関　優子

世田谷教室のオープンスクールでは、ＥＳＤ-Ｊの森良（もりりょう）理事のご指導のもと、大変ユニークな「五感を使った自然遊び」を公園で行いました。

「何色かの色紙を用意し、それと同じ色を公園の自然の中から探すゲーム」では、自然の色が太陽の下では変化して見えることなど視覚的な発見がありました。「二人一組で一人が目隠しをして公園内を歩く」ゲームでは、参加者はみな目隠しをして普段とまったく違う世界を体験。触覚に集中して木々に触れたりしながら自然を感じました。この時には、歩いている場所によって違う「におい」を感じ、「嗅覚」が鋭くなることにも気づきました。また、二人一組で行動することで、目隠しをしている相手の足元や頭上などを気遣い、互いの信頼感が引き出されました。

さらに「公園内の音を感じる」ゲームを行ったあと、サクラ、樫（カシ）、梶（カジノキ）、けやき、つつじ等の葉を使用した「葉っぱのカルタ」で子どもも大人も夢中で遊びました。プログラムはいずれも、植物の名を遊びながら覚えられ、自然を対象にしながら思いやりの心が引き出されるもので、充実したオープンスクールとなりました。

色紙と同じ色の葉っぱをさがそう

❺自由が丘オープンスクール　十一月二十二日（土）
「伝統素材を使った楽しい食育」

目黒区緑ヶ丘文化会館（東京都目黒区）
コーディネーター　中野　恵子

自由が丘教室では、地元の自然食による食育の指導者グループから三名の講師の方々を迎え、「玄米・胡麻・車麩を使った自然食」をテーマにしたオープンスクールを、調理室で行いました。

この日は、子どもたちが包丁や刃物を使わないで楽しめるメニューを実施。講師の方々とスタッフが前もって小豆玄米おこわを炊き、胡麻いりのクッキー生地を作っておきました。その生地を子どもたちは自由に形作り、また、就学前の小さい子どもたちは、丸い生地に指の跡をつけるだけのシンプルな作業で楽しく調理に取り組みました。自然な素材のお菓子は滋味があり、自分で作った喜びも相まって格別のおいしさでした。

このような、地域に密着した食育と持続発展教育（ＥＳＤ）の試みとがひとつにつながることは、地元の食育グループや父兄の方々にとって新しい発見で、驚きの声が上がりました。遊びながら創意工夫が引き出される、とても充実したプログラムでした。

小さな子がまだ舌足らずに「くれてよかった！　くれてよかった！」（来れて良かったの意）と踊りまわっている姿にみんな大喜び。幸せなひとときでした。

小豆玄米おこわにすりゴマをかけて

❻小金井オープンスクール　十月十八日（土）
「エコと食育に感謝の心をプラスして」

上之原会館（東京都小金井市）
コーディネーター　池田　多鶴子

小金井教室のオープンスクールでは、日頃から取り組んでいる「エコと食育」をテーマにし、ＥＳＤの目的に沿ったプログラムが行われました。

最初におんだん館（※）の資料をもとに作成した紙芝居を観て、子どもたちは物を大切にすることはエコにつながっているということを理解しました。さらに、ゴミの中で最も量の多いものは食べものであることを知った上で、捨ててしまいがちな部位や材料を使った「残りごはんのピザ」と短時間にできる「省エネ・野菜のポタージュ」の調理にみんなで楽しく取り組みました。生ゴミをなるべく出さないように工夫して調理すると、いただくときにも一つひとつの材料に感謝が湧いてくることを体験しました。そして、世界で三秒に一人の子どもが飢餓のために亡くなっている現実がある中、日本に生まれ、毎日食事をいただくことが出来る幸せを思い、食べものを粗末にしてはいけないというだけではなく、「エコと食育」の原点である「感謝」の心をみんなが共有したオープンスクールになりました。

※全国地球温暖化防止活動推進センター「ストップおんだん館」

残り野菜とごはんのピザ

❼川崎オープンスクール　九月二十七日（土）
「手作りリサイクル楽器でミニコンサート」

川崎市立下小田中小学校（神奈川県川崎市）
コーディネーター　相澤　弘美

今年度は、川崎市立下小田中小学校のフェスティバルの一環として参加して、開催しました。同校のたくさんの児童や保護者の皆さんも来て下さいました。

会場内には、日用品を使って教室のみんなが手作りしたアイデア楽器が展示され、ホーローのコップ、台所用のアルミの入れ物、ペットボトルなど、それぞれどんな音がするのか、皆さん試していました。リサイクル楽器の作製では、洗足学園大学の学生にご協力頂き、空き缶、ペットボトル、トイレットペーパーの芯、小石やお米などを使ってマラカス作りに挑戦しました。本物のマラカスとの音の比較もしてみました。このような不用品を再生し、新たな生命を吹き込む活動を通して、環境に目を向け、創造力を発揮するよい体験となりました。

その後、音大の学生の皆さん（※）のフルートやキーボードなどと手作りのリサイクル「マラカス」の合奏を楽しみました。「崖の上のポニョ」等、みんなの大好きな曲を演奏し、大盛況でした。自由な発想で物を作る時の子どもたちの集中力は、大変素晴らしいもので、与えられたおもちゃだけではなく、自らのアイデアを生かし、自発的に楽しさ、おもしろさを創造していける貴重な体験となりました。

※本報告書本編九ページも併せてご覧下さい。

リサイクル楽器「ゆめマラカス」

❽くりのこオープンスクール　十一月二十三日（日）
「伝統文化に触れる投扇興（とうせんきょう）とみんなの収穫祭」

ふれあい館しらふじ（長野県須坂市）
コーディネーター　山浦　弘子

くりのこ教室では、東都浅草投扇興（とうせんきょう）保存振興会須坂支部の今井彰支部長と宮崎脩（おさむ）氏のご指導のもと、江戸時代後期に生まれた投扇興（とうせんきょう）という伝統文化に根ざした遊びを行いました。赤い毛氈（もうせん）や扇などの道具立てもゆかしく、点数は的と扇の位置によって源氏物語の登場人物の名前でつけられ、遊ぶうちに日本の伝統文化に触れることができます。年齢・性別・経験を問わずにみんなが参加できることも特長です。

子どもたちはのびのびとそして真剣に興じ、よい姿勢を保ち集中して臨む大切さが自然に身についていく様子でした。途中からは父兄も参加し、最後は先生方の模範演技で締めくくりました。

遊びのあとは、くりのこの田んぼでみんなが育てたお米の収穫を祝うお祭が催され、新米を使った五目御飯など心を込めて作られた料理を楽しく囲みました。子どもたち、スタッフを中心に、保護者、地域の方々の愛情が見事に形になった、オープンスクールでした。会場には、松本孝夫氏のわら細工も展示されていました。

蝶を形どった的に目がけて
扇を飛ばします。

❾新潟オープンスクール　十一月十九日（水）
「茶道による伝統文化体験と手作り教室」

大畑少年センター（新潟県新潟市）
コーディネーター　井上　眞澄

新潟教室オープンスクールでは、平日の放課後十五名の地球っ子たちが集い、前半に茶道教室、後半にレザークラフト（革細工）や紙国旗や新聞広告を使用したかご作りなどの手作り教室と、静と動の両方を取り入れたプログラムを行いました。

茶道教室では、子どもたちは四人の先生方に、お作法を手取り足取り教えていただきながらお茶を点て、日本の伝統文化を体験しました。

手作り教室では、指導の阿部ヒサ子先生からプロの革細工の作業を学び、見よう見真似で木槌と金属製の刻印を使って自分の好きな模様を革に打ち込み、思い思いにキーホルダーやカードケースを作りました。手作り国旗制作のコーナーでは、国旗の見本を参考にしながら、クレヨンや色鉛筆を使って好きな国の国旗を描いて壁に飾りました。その後、国名当てクイズにみんなでトライし、和気あいあいとした雰囲気の中で世界の国々について学びました。

活け花をいつも教えていただいている草月流の塩田秀先生には、事前に素晴らしい作品を制作していただき、会場に飾りました。素敵な活け花で会場が和やかな雰囲気に彩られました。

茶道教室風景

❿ふじオープンスクール　十月十八日（土）
「宇宙・宇宙人」をイメージしよう！

今泉まちづくりセンター（静岡県富士市）
コーディネーター　山下　いづみ

ふじ教室のオープンスクールは、窓から富士山を望む会場で「宇宙・宇宙人」をテーマに行われました。この日はまた、貧困撲滅のために世界規模で行われた公式ギネス記録アクション『百万の言葉、ただ一度立ち上がってほしい—STAND UP』の実施日にあたり、まず、このスペシャルイベントに全員で参加。世界の貧しい人たちに関する説明を聞いてイメージをし、早速TAKE ACTION—しゃがんでから立ち上がり、みんなで「がんばろう！」とシャウトしました。

その後、宇宙の広さや天体などについてみんなで話し合い、風船を使った「自分の星作り」に没頭。風船に、アルミホイルや折り紙、キラキラ素材などを貼り付けた「自分の星」はどれも個性豊かな出来ばえでした。年長の子どもたちは、紙にたくさん点を描いて線でつないだ「星座作り」も行い、記念に出来上がった作品をラミネートしてもらいました。

自由な雰囲気の中で、たくさん風船を膨らましたり、おもしろい形の風船に顔を書いたり、段ボール箱で遊んだり…子どもたちは創造力と遊びの天才ぶりを遺憾なく発揮し、「宇宙遊泳」をのびのびと楽しんでいました。

広い宇宙がぐんと身近に

⑪甲陽園オープンスクール　十一月十二日（水）
「ジュニア・リーダー」育成への取り組みと自然保護

西宮市立甲陽園小学校 地域交流室（兵庫県西宮市）
コーディネーター　福岡　妙子

甲陽園教室のオープンスクールでは、第一部として、本年度高学年の子どもたちが取り組んでいる「ジュニア・リーダー」（※）の活動の、子どもたち自身による発表が行われました。この取り組みは、高学年に達した子どもたちが教室のお兄さんお姉さん的な役割を担い、年少の子どもたちをリードしながら、自主性と責任ある行動を育んでいこうというものです。子どもたちは資料を使いながら、自主活動の様子などを保護者や地元の皆さんに発表。サマーキャンプでの自然体験、地域行事参加時の様子などを一人ひとりが堂々と発言しました。その中で、子どもたちが広場を運営する大人たちへ感謝を表してくれた場面があり、感慨ひとしおでした。

第二部では、「日本熊森協会」からお招きした職員とボランティアの方が、パワーポイントと紙芝居を使い、日本の文明・文化を支えてきた森や野生動物の危機、自然保護の必要性、豊かな自然を守るために実践活動をする喜びと楽しさなどを分かりやすく教えてくださいました。自然保護や人間を取り巻く環境について理解を深める貴重な時となりました。

※本報告書本編十三ページ「ジュニア・リーダーの試み」も併せてご覧ください。

発表風景

⑫ヒロシマオープンスクール　十一月二十九日（土）
「遊びを通じて不思議を知る・科学を楽しむ」

竹屋公民館（広島県広島市）
コーディネーター　土井　奈保美

ヒロシマ教室のオープンスクールでは、広島市こども文化科学館ワークショップインストラクターの山縣圭子先生を講師にお迎えし、「空気」をテーマに「科学的に思考力をつけ、失敗を恐れない自由な心を育むこと、科学体験を共有することで、一体感や共感を抱くこと」を目的としたサイエンスショー、科学教室が行われました。

サイエンスショー「ためして実験！風船のひみつ」では、空気の重さ比べ、浮く風船と浮かない風船の実験や、風船を串刺しにしても割れない不思議、風船を火にあぶっても割れない不思議等、子どもたちはハラハラドキドキし通しでした。道具や材料は身近なものでしたが、普段は発想が及ばないような体験を通して自然の不思議に触れることが出来ました。

科学教室では細長い風船を使い、風船ロケットを作成しました。それぞれ自由に作成し、実際に飛ばしてみると、速くまっすぐ飛ぶものや、不思議な飛び方をするもの、デザインが素敵なロケットなどそれぞれに個性的。風船につけた羽の位置でロケットの飛び方が異なるなど、科学的な根拠があることも知りました。教育界では理科離れが叫ばれる昨今ですが、子どもたちは遊びの中に自然の不思議さを発見し、科学の楽しさを体験していました。

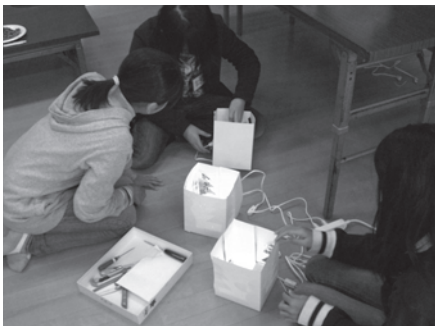
科学実験教室の様子

⑬福岡オープンスクール　十一月二十二日（土）
「エコ工作で素敵な常夜灯づくり」

田島公会堂（福岡県福岡市）
コーディネーター　高島　節子

福岡教室では造形アートの先生をお迎えし、エコ工作というテーマで、牛乳パックを再利用したアート創作を行いました。作った作品は常夜灯で、シルエットが影絵になって浮き上がる素敵なデザイン。きめ細かい指導をいただきながら、子どもたちはみんな楽しく集中して制作に取り組みました。普段捨てられてしまうものから、創造性豊かな作品が出来ることがわかり、うれしい学びでした。

同教室には自閉症のお子さんが見えていますが、この日もプログラムに参加して自由に工作をして過ごしていました。このお子さんは、子どもたちの心に思いやりや優しさを育んでくれる大切な存在となっていました。



製作風景

影絵が浮かび上がるデザイン

⑭鹿児島オープンスクール　十一月二十四日（月・祝）
「天然素材のリース作りと食の体験＆里山探検」

琢庵（たくあん）道場（鹿児島県鹿児島市）
コーディネーター　内村　真喜子

鹿児島教室のオープンスクールは、地元の方のご好意によってお借りしている、自然に囲まれた琢庵道場で開催しました。プログラムの前半は、近くの森で拾ってきた蔓とドングリ、竹を使ったリース作り、そして竹を使った五平餅とホットケーキの炭火焼です。火を熾（おこ）す時も、子どもたちは工夫して協力し合い、楽しみながら行いました。

その後、近くの広葉樹の森に行き、リーダーの方に付き添われての里山探検へ出発。リーダーの方による里山の仕組みの説明を聞き、草木、きのこなどに触れながら山登りをしました。少し雨が降っていましたが、森の中では、木が葉から枝へ、そして幹へと雨を伝わせてくれるので、みんなそれほど濡れることなく歩くことが出来ました。里山では、人の手が加わった所と、自然のままの所を比べながら歩きました。ゴールでは近隣の方のご好意でその方の所有されているみかん畑でみかん狩りをし、地元の自然の豊かさを満喫しました。

子どもたちは、大笑いをして、のびのびと本当に素晴らしい時間を共有していました。同教室は地元の皆さんとの信頼と協力体制の上に築かれ、ＥＳＤの良き実践の場となっていました。

蔦、どんぐり、竹を使用したリース
（どんぐりをトトロに見立てて）

「持続的発展教育 (ESD)」は「21 世紀の人づくり」

ESD への取り組み

工学院大学准教授
内山　宗昭　氏

グローバルな視野に立って平和の創造に携わっておられる四名の先駆者の方々から、持続発展教育（ＥＳＤ）に取り組む本委託研究に向けて、メッセージをいただきました。

工学院大学にて教育学や道徳教育の研究などに取り組んでおられる内山宗昭准教授、台湾にて長年英語教育に携わり、現在は米国を拠点に世界中を駆けめぐり、平和教育の啓もう・啓発に取り組む「世界平和のための国際教育者協会」平和大使のシャオ・ルン・オーグル女史、米国に本部を置くエハマ研究所の共同創設者兼共同代表として、ネイティブ・アメリカンの伝統的英知に基づいた平和教育を実践しておられるウインドイーグル女史、レインボーホーク氏のご夫妻です。

持続発展教育（ＥＳＤ）への取り組みは、五井平和財団における教育活動としても、分野を超えて地球全体のことを広く考え未来を拓いてゆくための具体的な実践として展開しています。地球の抱える問題解決という側面でいろいろなテーマについて理解を深めてゆくと同時に、なによりも未来を明るいものにしようと取り組む意識改革に根差した教育実践であることに改めて気づかされます。未来を担う子どもたち、青少年たちがその自発性・創造性を引き出し、主体的に意識を啓発しつつ活動してゆくための、そのためのベースの形成を援助することが重要です。同時に、それに携わる多様な年齢、分野、立場の多くの人がおのずから意識改革をなしとげ、一致協力して実践をしているわけですが、そのことは平和な世界の創造を目指した社会全体のあるべき方向を示唆しているようで、未来に向けての勇気がでてきます。ＥＳＤが大きな目的の達成に向かっているがゆえに、まなびあいという生涯学習のよきあり方がこのような緊密な形で実現しているものと思われます。

「教育」という言葉の出典が『孟子』の「君子の三楽」にあることは、よく知られていますが、その中で、人の楽しみとはけっして地位や名誉に与ることではない、未来ある若者の教育に与ることこそ最大の楽しみのひとつであると言っています。教育に与るのは、教育関係者ばかりではありません。平和の創造に向けては分野・立場をこえた直接・間接の関わりこそが大事です。関わっているのだという意識が重要でもありましょう。ＥＳＤを体験した若者の中から、ときにはすぐにもリーダーシップを発揮して地球の問題に取り組もうとする人も出てくることでしょう。しかし、そのときは、きっかけに過ぎず、ずっと後になってから、あるとき翻然と自らのこととして本格的に活動する人もでてくることでしょう。これも教育の嬉しい側面です。

地球を持続発展させ新しい世界の平和的創造を可能にするために展開されているこの日本発のユネスコ推進の世界的な活動に、今回は「子どもの自発性や創造性を高め持続発展教育（ＥＳＤ）を推進する活動モデルづくり」のテーマでのモデル事業を中心に参画していますが、当財団の教育活動全般がＥＳＤの方向性と重なり合いますので、今後も日本はもとより世界各地で展開されてゆくことが期待されます。

次世代育成のカギ

世界平和のための国際教育者協会　平和大使
シャオ・ルン・オーグル女史

最先端技術によって、ありとあらゆることが便利になりました。コンピューターをクリックするだけで、私たちは瞬間的にあらゆる情報に触れるのです。この技術を使って、私たちは新しいタイプのメディア、即ちブログを始めることが可能になりました。これは個人と個人をつなぐ新しいコミュニケーション手段で、個人の意見をベースにしています。けれども、子どもたちが大人のチェックや情報管理の技術も持たずに、誰にもコントロールされないパーソナルなコミュニケーションを行うことで、人格の未成熟な形成がもたらされる可能性が大きいのです。若者は何かにすぐ飛びつきやすく、簡単に熱中してしまうように、彼らは容易に悪いことに誘い込まれ、しばしば極端な行動に走ってしまいます。若者は導いてくれ、何が善と悪かという区別を教えてくれる先達者を必要としています。

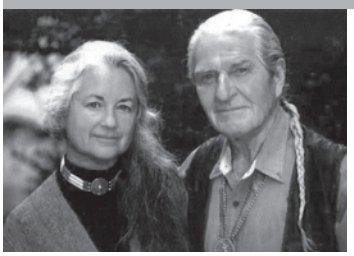
行動形成プロセスは学びのひとつであるように、子どもの行いは大抵、親や周りの人の行動や態度を反映しています。子どもたちが分かち合うということを身につけ始めたときには、彼らの周囲にいる誰もが彼らに大きな影響を与えます。この段階では、周囲の大人は子どもがこの特長を伸ばすことを助け、次にはその真似をすることが、子どもが他の寛容、利他、無私、慈悲、精神性、創造性という多くの特質を育んでいくことを助けます。子どものよい面を発展させるためには、精神が影響を受けるのに適した十分若いときから始めるべきなのです。五井平和財団はこのことに気づいて、その現実を認識し、二〇〇五年に地球っ子広場を始めました。このプロジェクトは、子どもが大人と共に自由に集える場所を提供することです。保護者、ボランティアの先生、子どもがお互いに影響を与え合うこの場を通して、保護者やボランティアの先生は子どもが求めていることを知り、子どもは大人の一番良い経験と叡智を受け継ぐことになるのです。

子どもたちがよりよい未来を受け取れるように、二〇〇八年二月十八日から二十五日まで、五井平和財団とＡＣＣＵ（※）が共同でシンポジウムを行い、海外から十人の先生と二十二人の日本人教師を集め、お互いの経験を共有し、新しい世代の人々を責任ある世界市民へと転換する方法を探究しました。参加者は積極的に発表を行い、意見を交換し、経験を話し合い、どのような普遍的価値を子どもに教えたいと思っているのかを議論しました。五井平和財団は他にもたくさんの教育プロジェクトや活動も行っていて、若者が精神的にも物質的にもバランスのとれた生活を送り、創造性を発揮し、日々の生活の中で、様々な困難や決断、争いに直面したときに注意深く考えることを促すことを目的としています。私は参加者の一人として、五井平和財団が主導している放課後子ども教室である地球っ子広場がイスラエル、インド、フィリピンその他の海外の国に紹介され、促進されているということを知る機会を多く与えられました。

大いなる利益が確実にこのプログラムに参加している人にもたらされるでありましょう。この素晴らしい放課後プログラムの種は播かれつづけており、それらは育ち繁栄すると確信しています。

※ＡＣＣＵ：財団法人ユネスコ・アジア文化センター

持続発展のための教育 (ESD)



エハマ研究所、及び平和の訓練世界財団
共同創設者兼共同代表
ウインドイーグル女史
レインボーホーク氏

南北アメリカの元来の様々な地球文化と、惑星全体を包む地球の諸文化は、それぞれにユニークで、異なったものであるが、それらはどの大陸が発展に寄与したかに関係なく、深遠な価値を共有していた。

私たちがかつて理解し、今も共同体が持続可能であるために理解しておかなければならない文化について、若者は自分たちの部族の物語や文化の話を聞いておく必要がある。語られる物語は彼らの心に生き続けるであろうし、彼らの人生を導くであろう。そして、それらは彼らがどのように生き、それらの人々の価値をどのように受け継ぐかということに永続的な影響を与え続けるのである。

今日、私たちの世界の多くの変化と困難のために、私たちは彼らの成長をサポートしながら、若者を教育し、能力を開発し続ける新しい方法を探す必要がある。

教育だけでは不十分である。五井平和財団の教育プログラムと、ESDを促進するというテーマで形作られたような教育の持続的な発展は、今日の子どもたちの要望へのタイミングのよい答えになっている例である。なぜであろうか。それが共同体全体を含んでいるからであり、異なる文化、地方の市民、保護者、教育者、社会活動家を取り込むことで、平和の文化への扉を開いているからである。私たちは実際かつてないほどに世界家族なのである。地球共同体が平和な世界の構築に向けてさらに踏み込んでいく時が、今である。私たちはESDを見事に貫いている互いの尊敬の意識をもって、全生命の尊厳を新たに取り戻していかねばならないのである。

＊エハマ研究所について

米国ニューメキシコ州にあるエハマ研究所は、「人と人が、町と町が、そして企業と企業が、互いに尊敬し合い調和し合い、同時に、地球を尊重し自然とも調和して生きていくために、人々の意識を目覚めさせ、バランスのとれた社会を築いていく」目的で、設立されました。ネイティブ・アメリカンの伝統的な「部族会議の教え」を根本理念に、人々の心に平和と調和を築くためのワークショップやエコロジー村の形成を促進しています。また、この数年来、「平和のための倫理と躾（しつけ）」というテーマで、子どもたちへの「心と生命の教育」を生活に根差した形で実践するメソッドを研究しています。将来的には、四十カ国へのメソッド展開を計画しています。

全世界からの英知の結集
ESD の包括的理解のために

2008 年 12 月、東京・青山の国連大学で、“ESD 国際フォーラム 2008”が開催されました。ユネスコ本部、各国ユネスコ国内委員会をはじめ、世界 47 カ国から、“ESD：持続発展教育”に取組む代表者・パートナーが集い、地球規模での英知の結集が図られました。

以下、持続発展教育 (ESD) を包括的に理解するため、フォーラムで語られた有識者のオピニオンに加え、歴代の五井平和賞 (※) 受賞者が語った ESD 推進のヒントとなる英知の言葉を集めました。いずれも ESD の目指す方向性や価値観を共有する上で、重要となるキーワードが散りばめられた全く新しいパラダイムを示す言葉の数々です。ESD への一層のご理解のためにお役立て頂けましたら幸いです。

ＥＳＤ国際フォーラム二〇〇八より（順不同・発言者名省略）

●ＥＳＤは、今までの教育のすべてを変革する取り組みである。同時に今までの学問・研究のすべてを再統合する道筋でもある。

●各加盟国の元首、政治、経済、環境、企業、ＮＧＯ等々、全分野が参加してＥＳＤを成功させることが、世界持続発展への切り札である。

●今、地球規模で発生している諸問題は、人類自らの思考、行動、生活態度こそが原因となっているのだ。

●ＥＳＤを理解し、実践・普及できるＥＳＤマインドを持った人材の育成こそ急務である。

●隣人同士、加盟国同士、小異を捨てて、大同につき、力を合わせて共生してゆく以外に生き残る道はない。

●ＥＳＤによって哲学、科学、経済、技術、生物多様性など、すべてを再統合した新しい学問・研究を創造し、普及しなくてはならない。

●細かく分類された従来の単一の学問・研究・教育では、今の複雑で複合的な危機には対応できない。ＥＳＤは再統合の道筋でもある。

●人類の進化は、ＥＳＤの成功にかかっている。教育の量子的飛躍、歴史的な大変革が、今、必要不可欠なのである。

●人類は唯物論、商業主義の立場を乗り越え、持続発展が可能な選択のみを積み重ね、決断・決定・断行してゆかねばならない。

●自らの責任を果たさなくてはならないことを認識し、実践出来る地球市民を短期間に大勢育成することが、ＥＳＤの一大使命である。ＥＳＤは、二十一世紀にふさわしい地球規模の価値観、倫理・道徳の徳目をベースとして推進してゆかねばならない。

●ＥＳＤは、私たち一人ひとりに地球規模の状況を包括的な理解をもたらすことで、魂レベルからの意識変革を促し、思考、行動、生活態度のすべてにおいて、持続可能な選択をし続ける地球市民へといざなう。そうして、地球・世界全体を、持続可能なレベルへとソフトランディングさせてゆくことを目指しているのである。

●全世界が協力し、ＥＳＤ推進に取り組む中で、ＥＳＤマインドがあらゆる分野に普及・浸透してゆけば、人類一人ひとりは二十一世紀にふさわしい進化を遂げ、より高次元な意識状態での生き方を体得し、新たな段階での継続的な発展を成し遂げることが出来る。ＥＳＤ推進による明るい未来のシナリオは、すでに描かれている。

歴代の五井平和賞受賞者が語ったESD推進のヒント（順不同）

●地球は自己調整機能により快適環境を維持している生命体である。私たちは、地球が何を必要としているのかを理解して、地球が今日まで、常に私たちを支えてきてくれたように、私たちも地球を支えていかなければなりません。

ジェームズ・ラブロック氏

●二十一世紀は「責任の遂行」の時代です。人類一人ひとりが、倫理・道徳の徳目をベースに、意識の転換を図ることが必要なのです。そのために必要なのは惑星的規模の価値観・倫理観の共有と実践です。未来は予測するものではなく、創造してゆくものなのです。

アーヴィン・ラズロ氏

●これからの哲学は、生命という観点に視座を据え、創造してゆかねばなりません。日本の伝統に生きている自然の循環、生かし合い、共生共存の思想が大切なのです。それは国家主義ではなく、多神教的な大らかで寛容な哲学への回帰です。

梅原　猛氏

●平和について良いアイデアを思いついたら、躊躇することなく総理大臣などに送り続けるのはいかがでしょうか。今、人類は大いなる使命を発揮できる宇宙的な存在へと、歴史的進化を遂げているまっ只中にいます。私たちは速やかに、精神的で霊的な時代に突入しなければならないのです。未来は楽観主義者のものなのです。

ロバート・ミューラー氏

●私どもの国、コスタリカは周辺諸国と戦うのではなく、常に交渉のテーブルを信じ、対話と相互理解により和平を達成してきました。軍隊を廃止し、軍備にかけるお金を教育・医療に振り向けてきました。私は大統領時代、「平和の種を国境の外にも蒔いてゆこう。そうすれば、誰も私たちの国に戦争の種を蒔くことなど出来なくなるのだ」と語ってきました。日本も、平和を輸出する国へと生まれ変わりませんか？

オスカル・アリアス・サンチェス氏

●地球環境は、すでに持続不可能な様相を呈しています。皆で力を合わせれば、流れは変わります。大切なのは、状況の深刻さと対応の緊急性について、人類一人ひとりの認識を短期間で高めることです。

レスター・ブラウン氏

●今、人類は思春期を卒業して大人としての考え方、行動、生き方を身につけるべき段階にきています。大人として生きるためのキーワードは、「自発的簡素」です。人類を危機から救うには四つの力が必要です。それは、「認識」「選択」「コミュニケーション」「愛」の四つの力です。

デュエイン・エルジン氏

●変革の担い手には、クリエイティブな思考で問題解決ができ、目標設定能力が備わり、リーダーシップを発揮しつつ、変革を成就するまで諦めずに前進し続けることができる、優れた資質が求められます。でも、それ以上に大切なのは、確固たる倫理観です。変革という行為の本質は、人々に愛と尊敬を与えることです。

ビル・ドレイトン氏

●それぞれに持てる資産や能力を世のため人のために提供し、使命を果たしましょう。協力とイノベーション、相互の連携こそ世界平和への道です。

ビル・ゲイツ氏

※五井平和賞：五井平和財団が平和な世界を創造するための理念と原則として提言している『生命憲章』（本報告書附属編「活動アイデア＆マニュアル集」三十一ページ）に合致した方向性で、世界平和樹立と人類の意識の調和に貢献している個人・団体に対して贈られる賞です。

委託研究推進にご参加下さった皆様の声

本委託研究の実践に参加、ご協力をいただいた方々よりたくさんのお声を寄せていただきました。

●保護者、協力者の方々のご感想より

窮屈だといわれるこの現代社会で、子どもたちが、本来の姿を伸び伸びと出せる場所があることは、子どもを育てていく上で、大人も心のゆとりが出来ると思います。

居場所があることは、どんなに安心でうれしいことか。何かあったら助けてくれる大人がいるということが地域の安全な環境を作ることになるのではないでしょうか。

家族全員が地域と結びつき、子育ての役割も十分果たされていると思います。

外国の方々との交流は視野が広がり、目の色、肌の色、言語が違っても、同じ地球人なのだと感じさせてくれます。以前は外国人を見ると避けていたのが、今では子どもが避けなくなりました。平和教育は必要だと思います。

互いの立場、相手が生まれながらに持っている文化や伝統などの背景を理解することが肝心だと思います。あらゆる文化、伝統を理解するための感性が必要になると思います。この感性こそ、この場で養われていると思います。

世の中が荒んできている中、愛する心、他人を思いやる気持ちが平和につながると思います。感性豊かな子どもたちに育てる上でとても良いと思います。

畑の野菜の収穫から、食べることの素晴らしさを学び、外国の方々との交流から、出会うことの素晴らしさを学びました。心豊かになることがたくさんあると思います。

「自分勝手」と「自由」の区別を体で覚え、いろいろな人と関わることで「一人ひとり違う個性」や「思いやる心」を教わりました。

子どもたちがスタッフの皆様にとても心を開いている姿がほほえましく、家庭でも学校でも見せない「自分」を見せているのだと感じました。本物の「心の居場所」になっています。

（スタッフの）温かい声かけや見守る姿など、子どもとの信頼関係を感じました。

制限しないで子どものアイデアを尊重すると、どんどん自分で考えて素晴らしいものが出てくる。

きっと子どもたちは、貴重な経験として大人になっても覚えていると思います。

普段、他の大人との関わりはなかなかないので、良い経験であり、自立へもつながると思います（自分で考えて行動する）。

子どもさんたちが思い思いの発想で、楽しみ、自ら作品を作っている様子を見せていただき、とても素晴らしいことをしていらっしゃると感動いたしました。自立した思いやりのある若者が出て、地域のためにまた、世界平和のために働いてくださると思います。お手伝いされている皆様もとても生き生きとして素晴らしいと思いました。

壁掛けや新聞で作ったエコバッグ！子どもたちの創造で、いろいろな飾りが付けられ、素敵な作品がたくさん出来ていた。

（地球の環境を守るというテーマの劇を観て）子どもたちが生き生きと感情を込めてセリフを言っていたので、スタッフの方がそのように指導されたのだと思っていました。ところが、特に子どもたちに何も言っていないというではありませんか！　子どもたちが自分で考えてそのようにセリフを言っていたことに驚きました。子どもたちにそのような力があるということや、それをうまく引き出している指導力に感心しました。これからの子どもたちへの接し方、子育ての仕方の参考にさせていただける有意義な発表会でした。

このような活動は、まだまだ、点であり、これが線になってつながり、面として広がって行くような施策があっても良いかなと思います。

●子どもたちから

ここはボクの特別な居場所だ。

いやなこともわすれられる。つかれもとれる。

これからも、なごみの場があったらいいな。

居心地がいいなぁ。

地球のこと、もっと知りたくなった。

安心して遊べるから、ここにもっと居たいな。

ここに来ると、小さい子どもたちと遊べるからうれしい。

大きいお兄ちゃんお姉ちゃんや、小さい子とも遊べて楽しい。

●子どもたちのうれしい変化

以前は周りにはまったく無関心だった子どもが、後片付けを一人でやっている友達を見てから、進んで手伝うようになりました。

何かトラブルになりそうになっても、子どもたち自らが「人に迷惑をかけない、だったよね」と、進んで声を掛け合うようになりました。

子どもたちに自主的な気持ちが芽生え、受身から能動的に変化しました。

●ご意見・ご要望

様々な国について知ることで、将来少しでも役に立てる人間になれれば良いと思います。

「平和」であるためには、何を受け継いでいくのか、これから何をしていったら良いのかを考える機会が欲しいと感じています。

とにかく、子どもが楽しく笑える場所を提供し続けて欲しいと思います。そして、どんな状況でも、心に余裕を持つことができれば、より良い社会生活を送ることができると考えています。

月一回でもいいから、続けてこのような機会があれば大変うれしいです。

行事がなくゆっくりと遊んだり、話したり、宿題をしたりと家のような存在でも良いなぁと子どもが言っていました。

エコを言葉としてではなく、行動として分かったり、思いやりの心を大切にする事、命の大切さを、劇などを通じてセリフを言うだけではなく、内容を理解して欲しいなぁと思いました。

●ＥＳＤ・Ｊ理事　森（もり）　良（りょう）　様より

地球っ子広場に参加して～子どもの個性と大人のかかわり～

いろんな子どもがいるなあと思った。すごく知的な子もいれば、身体を動かすのが得意な子もいる。独りで楽しめる子もいれば、つるむのが好きな子もいる。できるだけそれぞれの個性をつぶさないで伸ばしてあげたい。そのためには、大人の関わり方が大切だ。みんなでいっせいに同じ事をするばかりではなく、それぞれの個性に応じた活動の仕方を考えたらいいと思う。あれだけたくさん大人がいたら、よく話し合えば、子どもたちへのかかわり方を工夫することができる。そうすれば格段に活動の質は高まる。まず子どもたちの声に耳を傾けること、体験したら必ず振り返りをして皆で共有すること。やりたいことを引き出すことが大切だ。

子ども教室におけるＥＳＤの取り組みに期待することとその可能性

子どもたちのまわりに豊かなつながりやかかわりをつくり出すことが大切だ。今の子どもたちは、例えばコミュニケーション能力が低いとか「○○がない」といわれることが多いが、その大元の原因は関係性がない、薄いことだと思う。教育で一番大事なことは「教える」ことではなく、自分で考えたり試してみたりすることのできる環境づくりなのだ。

具体例をあげよう。地域と子どもたちのかかわり、世界と子どもたちのかかわりを実感できる体験活動をして、そこで感じたこと、気づいたことを子どもたちが自分たちで発信することをやるとよい。例えば、「買い物をしてお店に提案を出す」とか「こんな遊びをしたいからこんな公園にしたい」というような絵を描くとか。

●参考資料　取り組みのスキムを立体的に示してみました。

平成 20 年度 文部科学省委託事業「総合的な放課後対策推進のための調査研究」

放課後活動支援モデル事業　実施体制

（1）推進母体

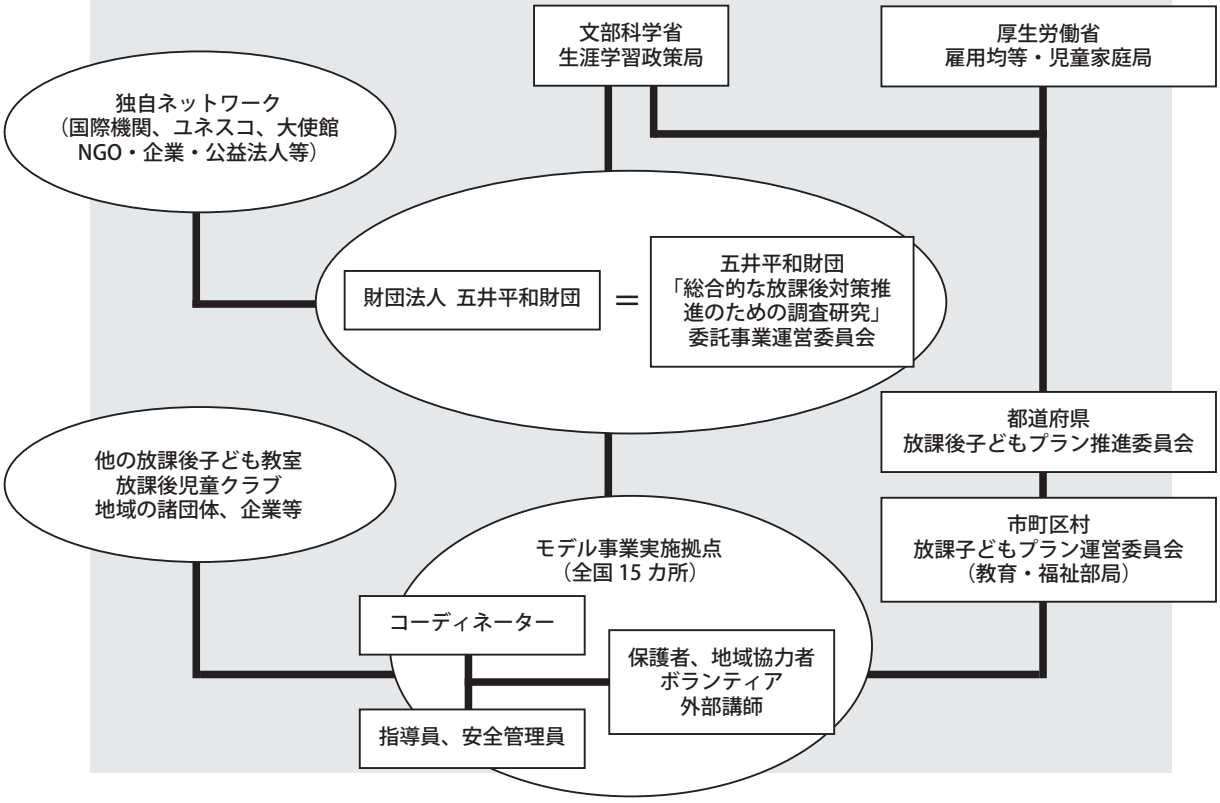
財団法人五井平和財団が、文部科学省と本事業の委託契約を締結し、全国 15 カ所の「地球っ子広場」において、それぞれの特色を生かした活動を実施しました。
本事業の委託期間は、平成20年7月25日～平成21年3月20日。実施拠点（＝教室）の名称及び所在地は、次の通り。だて（北海道）、五井（千葉県）、品川（東京都）、世田谷（東京都）、自由が丘（東京都）、小金井（東京都）、川崎（神奈川県）、くりのこ（長野県）、新潟（新潟県）、ふじ（静岡県）、甲陽園（兵庫県）、ヒロシマ（広島県）、福岡（福岡県）、まえばる（福岡県）、鹿児島（鹿児島県）。

（2）運営委員会

五井平和財団内に、「総合的な放課後対策推進のための調査研究」運営委員会を設置しました。

運営委員長	富岡　賢治（群馬県立女子大学長）
運営委員（監査）	相原甫二雄（相原公認会計士事務所所長、公認会計士、税理士）
運営委員	赤野間征盛（特定非営利活動法人 日本 UNHCR 協会代表理事）
	有友　　淳（元富士通株式会社　海外統括営業部長）
	内山　宗昭（工学院大学准教授）
	堀川　香織（医療法人 堀川会常務理事）

（3）事業実施のための組織図



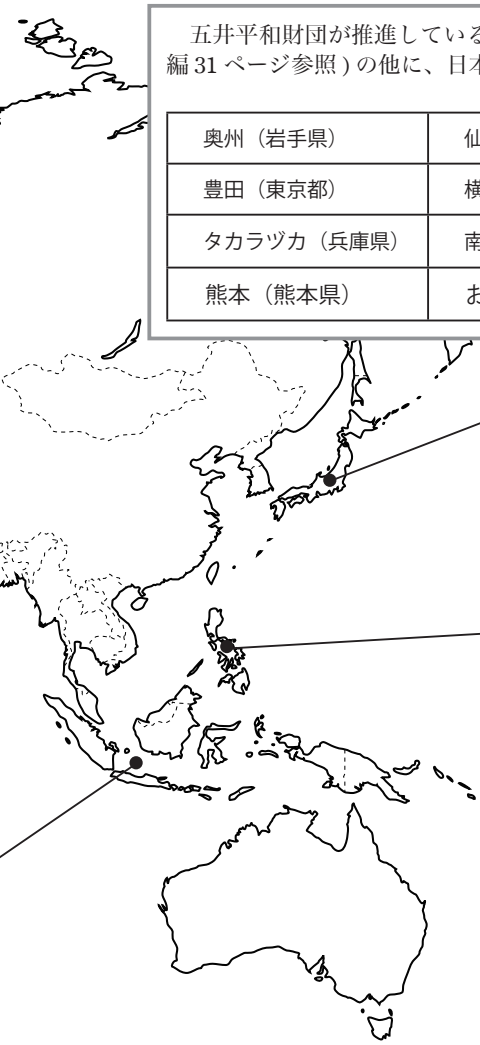
世界規模で広がるメソッド展開と地球っ子精神

ESD（持続発展教育）の一環として、「地球っ子広場」の教育メソッドが海外で実践され、高い評価をいただいた事例が報告されています。

平成 20 年 2 月に、五井平和財団と財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）と共催の、『日本の文化創造に向けた日本とアジアの教員交流プログラム』に参加された初等教育に携わるアジアの先生方が、帰国後にご自分の学校、担任しているクラスで、「地球っ子広場」のメソッドを採り入れたプログラムを導入しているケースが中心です。5 つの報告をご紹介します。

五井平和財団が推進している地球っ子広場は、本委託研究事業に参加の 15 カ所の教室 (本報告書本編 31 ページ参照) の他に、日本国内 14 カ所の地域で展開されています。

奥州（岩手県）	仙台（宮城県）	いすみ（千葉県）	杉並（東京都）
豊田（東京都）	横浜（神奈川県）	葉山（神奈川県）	大野ひまわり（福井県）
タカラヅカ（兵庫県）	南国土佐（高知県）	なかよし（福岡県）	夢つごろう（佐賀県）
熊本（熊本県）	おきなわ（沖縄県）		



フィリピン

2008 年 10 月 25 日（土）フィリピン・マグダレナ州のセントラルスクールで、初めての地球っ子広場を開催しました。この日は科学の先生から「生態系」「種の多様性」の大切さについて学んだ後、18 人の子どもたちが海の見える丘に登って母なる地球に感謝を捧げ、植樹と種蒔きをしました。子どもたちの地球への理解が促され、大成功でした。

また、別の機会には、子どもたちが二人ひと組になり、一人が目隠しをして、もう一人が導きながら歩くというアクティビティを実践し、人を信頼することの大切さを身をもって感じることが出来ました。

広場は、マリオ・フンゴ氏と仲間たちが企画、学校の社会活動クラブと地元のパートナーによって共催されています。
(メアリー・グレイス　記)

イスラエル

2008 年 10 月 12 日（日）、イスラエルで初めての地球っ子広場を開催しました。初回は日本で教わった「平和の木をつくろう」にヒントを得て、ユダヤ歴の新年に因み、明るい年明けを象徴するリンゴの樹をモチーフにしたプログラムを創作し、大人気でした。

既にイスラエルの教育担当省からも支持を得ており、今後は週 2 回のペースで授業の一環として開催していきます。

（ドナ・モーリス　記）

アゼルバイジャン

2008 年 4 月 17 日 (木)、アゼルバイジャンにあるインテレクト・スクールにて、放課後の時間を使い、約 20 名の子どもたちと地球っ子広場を開催しました。地球っ子広場の「３つのお約束」も取り入れました。

プログラムは多文化理解をテーマに、日本の折り紙で簡単に作れるハートを作成。いろいろな学年の子どもたちが集まる中、年長の子が小さな子たちに教えてあげたり、ほほえましい雰囲気でした。先生方も夢中になって折り紙に取り組まれていました。出来上がった作品はお母さんにプレゼントすることになり、みんな思い思いのメッセージを書いていました。

（芝本　匡代　記）

インド

2008 年 4 月 9 日（水）、インド、ラクナウ市のシティ・モンテッソーリ・スクールのジョプリンロード分校にて、地球っ子広場プロジェクトが始まりました。子どもたちは皆、このプロジェクトが日本発であることを理解して、とても楽しみにして来ています。色紙を使った鶴や魚作り、りんごの木に平和な美しい言葉を書いた紙を貼っていく「平和の木をつくろう」のプログラムが行われました。校長先生が、自然を尊ぶことの大切さを話され、地球っ子広場の「３つのお約束」もそのまま取り入れています。

この広場はその後、毎週土曜日、同校の正課として実施され、初回から素晴らしく順調に進んでいます。そして二つ目の地球っ子広場も、同市のインターナショナル・スクールに開設されました。

（プリーティ・シャンカール　記）

インドネシア

東部のジャワにある、インドネシア第二の都市ジュンブルで、2007 年 10 月、この国で初めての地球っ子広場を開催しました。

この日は日本の折り紙に子どもたちが取り組み、出来上がった作品を嬉しそうに家に持ち帰りました。インドネシア人、中国系、アラブ系、その他外国人が住んでいる同国にあって、互いを認め合い尊重しあう地球っ子の精神が期待されています。

（佐田　真輝恵　記）

子どもの自発性や創造性を高め
持続発展教育（ESD）を推進する活動モデルづくり

附属編 「活動アイデア＆マニュアル集」

財団法人 五井平和財団
〒102-0093　東京都千代田区平河町 1-4-5　平和第 1 ビル
TEL：03-3265-2071　FAX：03-3239-0919
E-mail：kids@goipeace.or.jp
http://www.goipeace.or.jp
http://www.earth-kids.net（地球っ子広場）

附属編は
「活動アイデア＆マニュアル集」
こちらから

附属編「活動アイデア＆マニュアル集」ご活用のご案内

この「活動アイデア＆マニュアル集」は、財団法人五井平和財団が、文部科学省の委託を受け、平成20年度中に取り組んできました「総合的な放課後対策推進のための調査研究」放課後活動支援モデル事業の報告書の中でも、特に活動の具体的な実施方法や効果的なプログラムを集め、まとめ上げたものです。

全国各地の「地球っ子広場」が、「子どもの自発性や創造性を高め持続発展教育(ESD)を推進する活動モデルづくり」というテーマで活動に取り組む中で、様々な素晴らしい活動アイデアが生まれました。

一口に「持続発展教育（ESD)」と言っても、身近なことから地球人類の未来について考える大きなテーマまで、その範囲は極めて広く、なかなかイメージを掴みにくいのも事実です。また、何から手を付けてよいか分からないという声もよく聞かれます。

そこで、本冊子では、教育の現場で直ぐにご活用いただけることに主眼を置きつつ、18の活動アイデアについて、出来る限り具体的に、準備するものや活動ポイント、応用方法などをご紹介しました。また、ESD活動を行うにあたって有益と思われる情報源（リソース）や参考図書などを「活動参考資料集」の中でご紹介しました。また、「子どもの居場所の開設・運営・管理マニュアル」も収録しました。

保護者や、子どもの居場所づくりに携わっておられる社会教育や子育て支援団体等の関係者の方々はもとより、小中学校で総合的な学習の時間の活動アイデアづくりにご苦労なさっておられる先生方にも、子どもたちの自発性や創造性を引き出し、ESDを考える上での良きヒントとしてご参照、ご活用いただけますと幸いです。

平成21年3月10日
財団法人 五井平和財団

平成 20 年度　文部科学省委託研究事業「総合的な放課後対策推進のための調査研究」

放課後活動支援モデル事業　　報告書　附属編

年次テーマ：子どもの自発性や創造性を高め 持続発展教育（ESD）を推進する活動モデルづくり

◎活動アイデア＆マニュアル集・目次

附属編「活動アイデア＆マニュアル集」ご活用のご案内

01　目次

02　**子どもの居場所づくりは、実践理念の共有から**

３つのお約束と子どもの居場所作り実践理念 10 カ条

04　**アクティビティ実践アイデア集**

●「世界の宝ものを探そう！」ゲーム

05　●クリスマスと世界の子どもたち

06　●太陽の恵み「サンキャッチャー」を作ろう

07　●中国ってどんな国？

08　●「民族衣装」のぬりえ

09　●「ちきゅうにありがとう」ぬりえ

10　●宇宙の中の自分！

11　●お誕生会「自分の生命と向き合う」

12　●リサイクル楽器作り＆みんなで演奏

13　●エコ工作「ガラスビンに絵を描こう」

14　●Ｔシャツリメイク

15　●未来のカレンダー作り

16　●ハンディキャップに寄り添うには

17　●子どもが先生になる日

18　●即興劇にチャレンジ！

19　●食育「エコな食材・大豆を知ろう！」

20　●食べものを大切に「エコのみ焼き」

21　●農業体験

22　**活動参考資料集**

28　**参考資料　放課後子ども教室の開設・運営・管理マニュアル**

31　『生命憲章』

子どもの居場所づくりは、実践理念の共有から

ワクワク☆ルンルン
Let's try ESD!

子どもたちが放課後や休日を過ごす中で、いかにして「子どもの自発性や創造性を高め持続発展教育 (ESD) を推進する」ことが出来るか、各地の実施場所では本委託研究のテーマに沿って様々にプログラムを練り、工夫を凝らして研究実践を行いました。その過程でいよいよ明確になりましたことは、“子どもの生命(いのち)がイキイキする”そういう場づくりを目指すことの大切さでした。

ここにご紹介する「３つのお約束」と「子どもの居場所づくり 10 カ条」は普遍的で、且つ教育観として今最も必要とされていることばかりです。そして、地域性やプログラム内容の違いなどに関わらず、どちらの居場所でも確認し実践の基本として捉えていただけるものでもあります。地球っ子広場のコーディネーターとスタッフは皆、実際にこれらの理念と意識を共有し合い、居場所づくりに生かして参りましたが、言い換えれば、これらの認識が共有出来たからこそ子どもたちが輝き、楽しさ溢れる場づくりが可能になったといっても過言ではないでしょう。

五井平和教育が培ってきた「３つのお約束」と「子どもの居場所作り 10 カ条」が、居場所づくりに関わるすべての方に参考にしていただけますよう、願ってやみません。

子どもの居場所におすすめの３つのお約束

１．　人にめいわくをかけない

２．　自分のことは自分でする

３．　あまった力で、人の手助(てだす)けをしよう

五井平和財団が推進し、今回の委託研究の推進にもあたった「地球っ子広場」では、このお約束を行動指針として毎回子どもたちが皆で、声に出して確認し合っています。皆で繰り返し声に出していると、子ども自身が心に留め、互いに、お約束を守ろうと自ら取り組み始めます。

居場所にいる時だけでなく、学校や家庭など様々な場で子どもたちがこのルールを実践し、特筆すべき効果が見られるとの声が全国でまた世界の各地で挙がっています。

子どもの居場所づくり実践理念 10 カ条

これは五井平和財団が推進し、今回委託研究の推進にもあたった「地球っ子広場」で指導にあたるスタッフ全員が共有している居場所のコンセプト・教育観です。今日すべての教育の場で必要と思われる考え方を整理してみました。世界中で活用されることを望んでいます。

1 子どもがイキイキとする場所であることを目指します。

子どもの生命を萎縮させることなく生かし切り、自信を持たせます。

■子どもの存在そのものを敬い、尊びます。
■子どもと交流し、子どもから学び、尊敬します。

2 喜びを子どもに与えます。

子どもが喜ぶことだけを語り、明るく大らかでポジティブな言葉だけを使うようにします。良い言葉から、喜びを体験します。そして、一切の暗い話題、悪い言葉を口にしません。

■良い言葉は、心の栄養。明るく考え明るく語る習慣をつけましょう。
■子どもが一生懸命やっているときに、決してからかわないことをルールとします。
■身体とか名前のことなども、決してからかったりしないことをルールとします。
■人をいたぶったり、けなすことによるギャグは、ユーモアでもなんでもない良くないこと。特に、しつこくそういうことをするのは良くないことだと、はっきりと教えましょう。

3 友だちがすぐにできる場であることを目指します。

友だちの喜びを一緒に喜びます。人の幸せを共に喜べるのは立派なことだと教えます。

■子どもと大人たちが一緒に喜びます。
■みんなが友だち、みんなが仲よしです。

4 ユーモアを大切にします。

子どもの無邪気な笑いを大切にします。大らかで、清々しいユーモアは、生命をイキイキとさせるエネルギーがあります。

■「笑い体操」「ハイタッチ」「拍手」などを積極的に取り入れましょう。
■ツッコミによる笑い、人の弱点を取り上げた笑いをよしとしません。厳しく注意します。また、子どもに特定のレッテルを貼るようなことは避けましょう。

5 「生命の尊厳」に価値観をおき、「存在そのものが尊重される安心感」を与えます。

すべての子どもは、そのままで尊く、そのままで独自の使命があるのです。

■今のままでよいのだよ、と子どもたちを受け入れます。子どもの心から恐怖、不安、心配が払拭され、「ありのままで良いのだよ」という安心感がもたらされます。
■良い子だから偉いとか、成績が優秀だから偉いなどという価値観は採りません。

6 「いつでもいらっしゃい」という安心感を与えましょう。

■困ったときには、いつでもいらっしゃい。もちろんご両親や先生に相談するのはいいけれど、ここでは大人はみんないつでも親身に相談に乗ってくれる。この安心感が子どもの生命を生かします。
■よく来たね。待っていたよ〜。またいらっしゃい。

7 挨拶をしましょう。

気持ちの良い挨拶は、みんなの心を明るくします。明るい言葉かけを進んで実践しましょう。

■「おはようございます」「こんにちは」「ありがとうございます」「お世話になります」。そして、自分が悪かったと思ったら、いち早く「ごめんなさい」と爽やかに。
■赦しの言葉を進んで使いましょう。英語の No Problem や Don't Mind に当たる言葉が日本語には少なく、使われることもあまりないようです。「いいんですよ」「大丈夫だから」「人間だもの」「よかよか」「良い経験をしたね」「雨降って地固まる」「人間万事塞翁が馬」「済んだことはよし」といった言葉を進んで使いましょう。

8 テストがありません。順位も序列も上下もありません。

礼儀正しく、お互いの生命を尊敬し合うところには、評価のための競争がありません。

■子どもたちが、大人からの評価の目を意識した緊張感から開放され、心からの安心感を得ることが出来ます。
■勝ち負けのあるゲームなどを過度に導入することで、新たな序列や優劣の感覚が発生するともったいないことになります。真にのびのびとできる場作りを目指しましょう。

9 心やすまる、なつかしい場所

■ネガティブな言葉も活動もないので、子どもはいつ行っても安心感を得ることが出来ます。楽しく、明るく、大らかな、なつかしい雰囲気だけに満ちているので、子どもはこれまでになく心休まるのです。

10 子どもたちが自らの夢を描き、それを実現する力を養います。

■自分と世界の未来を描き、自立して生きていくためには、新しい価値観が必要です。心と生命を大切にする新しい高次元な価値観を、子どもたちに示します。

アクティビティ実践アイデア集

「子どもの自発性や創造性を高め持続発展教育 (ESD) を推進する」ことを趣旨として、これまで実践してきたアクティビティをアイデア集としてご紹介いたします。実際に取り組まれる際のヒントとなるよう、手順などを掲載いたしました。材料や資料につきましては、実際にインターネットで検索されるのも便利です。いずれも小学生、中学生を中心に幼児から大人まで参加可能ですので、各々の状況に応じ、皆様のアイデアをさらに盛り込んで「放課後子ども教室」や学校、ご家庭などでご活用いただけましたら幸いです。

「世界の宝ものを探そう！」ゲーム

【活動内容】

世界の国々の素晴らしい自然や文化などの「宝もの」を探し、触れ、興味を持つゲーム

【ねらい】

世界には様々な素晴らしい「宝もの」があることを知り、尊重することを学び、国際理解を深める。
それを互いに発表し、理解を深め、さらに表現力とチームワークも養う。

【準備＆必要なもの】

・世界の「宝もの」が載っている本 (世界遺産・旅行本・各国の歴史の本など、図書館の貸し出しを利用するのもよい)、インターネットサイトからの資料
・世界の「宝もの」の写真・資料のコピーなど（それぞれの国の世界遺産や名所、特産物、文化の写真などを A4 ほどのサイズでそれぞれ 5 点くらいずつ用意する）

【進め方】

内容	備考、留意点など
＜宝探し＞ 1．あらかじめ世界の国々の中から、3 ～ 5 カ国ほど決めておき、資料もそれに合わせて用意する。世界の「宝もの」の写真を宝探し用の「宝」とし、予め会場内のあちこちに隠しておく。	・留学生など外国人の参加がある場合はその出身国を選ぶとよい。
2．子どもたちを 3 ～ 5 チームに分け、大人もそれぞれのチームに入る。	・チームの数は用意した国の数に合わせる（1 チームの人数が 5、6 人程度だと取り組みやすい）※グループリーダーを決めておくとまとまりやすい。
3．それぞれのチームが担当する国を決めて発表する。	・各チーム 1 カ国を担当
4．宝探しをする。まずは 2 つだけ探す。	・予め大人が会場内に「宝」を隠す。⇒「自分の国の宝だと思うものを 2 つ、探してきてね」と、子どもたちに探しに行ってもらう。
5．探してきた「宝もの」が担当国のもので間違いないか、大人が確認。合っていれば、それが何なのか説明する。	・資料等を使い、担当国の世界遺産や名所、特産物、文化などを併せて説明し、残りの宝探しにつなげられるようにするとよい。
6．残りの「宝もの」を探し、上記と同じように探してきた「宝もの」と担当国の確認と説明をする。 7．それぞれのチームがどんな「宝もの」を探したか簡単に発表する。	・宝探しが終わってしまい、することがなくなると興味が薄れるので、制限時間を決めるなどの工夫が要る。
＜宝の交換＝世界旅行＞ 1．集めた「宝もの」をお互いの国同士で交換し合う「世界旅行」に出かけることをアナウンスする。	・あいさつなど「ありがとう」以外の言葉も用意しておくと楽しい。
2．「世界旅行」の前にそれぞれの国の「ありがとう」の言葉を学び、言ってみる。 3．世界旅行をして「宝もの」を互いに交換し、交換したものを発表する。	・「宝もの」を交換する際に相手の国の言葉で挨拶をし、交換したら、相手の国の言葉で「ありがとう」を言う。

【応用アイデア】

・地域に住む留学生の方に来ていただくのもよい。その国の話をしていただくのも楽しく、また、外国が身近に感じられるようになり、より深い国際理解につながる。
・国連国際平和デー (毎年 9 月) に行う場合は、国連本部で「平和の鐘」を鳴らす行事が行われるなどの説明を加えるとよい。

【実際に行った感想・エピソード】

・子どもたちがバラバラにならないように、チームワークが大切。スタッフの人数によってはチームごとにスタッフが入るのもよい。

クリスマスと世界の子どもたち

【活動内容】

絵本の読み聞かせ。
世界の子どもたちへのメッセージを書き、クリスマスツリーに飾る。

【ねらい】

クリスマスの機会を通して、世界の状況に目を向ける。ものを大切にする心を育む。

【準備＆必要なもの】

・「アンナの赤いオーバー」 ハリエット・ジィーフィールド著　評論社刊
・クリスマスの飾りつけグッズ
・ハート型のメッセージカード、マジックペン、カードを飾るヒモなど、クリスマスツリーまたはツリーに見立てたグリーンや赤い紙など

【参考】

「アンナの赤いオーバー」は、戦後のもののない時代の物語。お母さんがアンナにオーバーをプレゼントする過程で、羊を育て毛を刈る人、糸を紡ぐ人、その糸で布を織る人、布から服を仕立てる人などが登場。糸はお母さんとアンナがコケモモで染める。多くの人の手を通ってオーバーが出来上がるというお話から、どんなものも多くの人の手を経て初めて私たちの手元に届くのだから、大切に感謝して使おうと話す。そのあと、世界にはプレゼントどころか食べるものも家もない子どもがたくさんいることを話し、その子どもたちに言葉のプレゼントしようということで、ハートの形をした紙にメッセージを書き、クリスマスツリーに飾る。

【進め方】

内容	備考、留意点など
1．会場をクリスマスの雰囲気が出るよう、みんなでシンプルに飾り付けをする。 2．クリスマスを祝い、「アンナの赤いオーバー」の読み聞かせをする。 3．ものの大切さについて話し合う。 4．世界の子どもたちの状況を紹介する。 5．ハート型の紙にメッセージを書き、ツリーに飾る。	・簡単な飾りつけでもクリスマス気分が出る。 ・読むスピードに留意する。 ・年長の子どもが年少の子どもをヘルプするように促すとよい。

【応用アイデア】

・読み聞かせ用の本は「生命（いのち）の大切さ」「地球環境」などを通し、自他の幸せを願うことに発展出来る内容を選ぶのがよい。

【実際に行った感想・エピソード】

・子どもたちは一生懸命読み聞かせを聞いてくれた。
・世界の子どもたちへのメッセージは「平和になってほしい」「平和が訪れますように」「家ができますように」「たくさん食べられますように」など、真摯な気持ちが書いてあった。

太陽の恵み「サンキャッチャー」を作ろう

【活動内容】

太陽の光を大切にする北欧文化について知る。
オリジナル「サンキャッチャー」を制作する。

【ねらい】

北欧文化に由来する「サンキャッチャー」の制作を通して、太陽の恵みと光の美しさを感じる。
自分の中にある、気持ちや思いを形に現す。芸術的感性、美的感覚を養う。

【準備＆必要なもの】

・はさみ、透明カラー折り紙、クリアファイル、ひも、ビーズ玉、セロハンテープなど

【サンキャッチャーとは】

・窓辺に吊るして、光の反射を楽しむためのインテリア小物。直接太陽光が当たると、部屋の壁などに虹色の光の粒が反射して広がる。

【進め方】

内容	備考、留意点など
1．地理上、北欧の人々は、太陽の光をたいへん貴重なものとし、大切にする文化であることを話す。その文化から「サンキャッチャー」が生まれた由来を伝える。	・造形は、目に見えないもの、例えば心や気持ちを形に現すことを伝えて、制作に取りかかる。
2．材料を使って、各々が独自のサンキャッチャーを制作する。	・一人ひとりの個性が作品に現れることを大切にし、独自性としてどの作品も素晴らしいということを、子どもたちに伝える。
3．風にゆらめく、光の美しさを皆で鑑賞する。	

【応用アイデア】

・このアクティビティは、造形という観点から芸術的感性を養う分野でもありますが、実際に太陽エネルギーを利用した、「ソーラークッカー」などの制作に取り組んで、科学の分野に触れても良いでしょう。
・太陽エネルギーの恵みだけでなく、風、水、火などの自然エネルギーの恵みを体感できるアクティビティを創作することで、さまざまな自然の恵みを感じることが出来ます。

【実際に行った感想・エピソード】

・北欧の文化に思いを馳せることで、地球理解にもつながりました。
・子どもたち一人ひとりの自由な発想で、のびのびと作品作りを楽しむことが出来ました。

中国ってどんな国？

【活動内容】

ゲーム感覚で、中国の地理や文化、遊びを知る。
ジェスチャーやジャンケンなどを活用し、友達とのコミュニケーションを通して学びあう。

【ねらい】

楽しく遊びながら、中国の地理や文化について、興味、関心を持つ。
異なる文化を尊重する心を育む。

【準備＆必要なもの】

・世界地図
・中国全土地図（中国だけが描かれたもの）→手作りも良い
・中国の写真や四川大地震の様子など
・中国語カード 「情丼」（ラブレター）「飞机」（飛行機）など→裏に日本語の意味表記
・中国特産品カード （食べ物や民芸品などの写真又は絵）

【参考資料】

・中国についての参考文献、中国ガイドブックなど

【進め方】

内容	備考、留意点など
1．世界地図で、日本、そして中国の位置を確認する。 2．中国について知っていることを皆で次々と言ってみる→ブレーンストーミング 3．写真合わせ→中国全土の地図を広げ、地名などが書いているところに、中国の象徴的な写真（北京オリンピック会場や万里の長城など）を合わせていく。	・世界地図からそれぞれの位置を子どもたちに指し示してもらう。 ・地図にシールを貼ってもらってもよい。 ・ブレーンストーミングとは、思いつくままにランダムに発言していくこと。 ・間違えることを恐れずに気楽に発言できる雰囲気作りに配慮すること。
4．言葉あてゲーム → ２人ペアに分かれて、A、Bを決め、片方一人に中国語カードを見せ、日本語の意味を教える。ペアのもう一方に、中国語カードとジャスチャーのみで、日本語の意味を伝え、当ててもらう。 5．ジャンケンゲーム → 中国式ジャンケンを教える。 6．中国式ジャンケンを並んでペアでやっていき､勝った方に、中国特産品（食べ物や民芸品など）の写真や絵を渡す。 7．集めたカードが何かをみんなで確かめ合う。 8．皆で、初めて知ったことやおもしろかったこと、感じたことなどを話し合う。	・《言葉あてゲーム詳細》２人ペアにわかれ、A、Bを決めてもらったら、Aの人だけ目を開けて、中国語カードと日本語の意味を見せる。Bさんは目をその間つぶってもらう。「スタート」の合図で、目を開けてもらい、中国語カードのみ見せ、ジャスチャーを加え、その日本語の意味を当ててもらう。 ・中国式ジャンケンとは ● パー → ツートゥ ● チョキ → ジェンツゥ ● グー → プー ・集めたカードの多い少ないは重要ではない。

【応用アイデア】

・世界の様々な国を取上げて、同様に体験してみることが出来る。
・実際にその国の方をゲストに迎えるのもよい。

【実際に行った感想・エピソード】

・「写真合わせ」では、テレビで見たり本で知ったりしていることも多かったようです。
・言葉あてゲームでは、どうにか相手に伝えようと身体全体を使って、一所懸命に表現していました。
・ジャンケンもすぐに覚え、何度も繰り返し、熱中していました。カードが集るのも楽しい醍醐味のようです。
・遊びながら、中国のことを楽しんで覚えていく様子が見られました。

「民族衣装」のぬりえ

【活動内容】

世界各国の民族衣装のぬりえ

【ねらい】

文化の多種多様性を知り、違いを認め、尊重する心を育む。
作業を楽しみながら、国名や国旗に親しみ、各国の言葉であいさつを学ぶ。

【準備＆必要なもの】

・民族衣装ぬりえ　※入手方法は五井平和財団までお問い合わせください。
・色鉛筆やクレヨンなど。
・民族衣装の図鑑、世界地図、世界の国旗の資料など。

【参考資料】

インターネットで検索した民族衣装の資料や図鑑、世界地図、各国の国旗の資料（国旗の意味などが書かれているとよい）など

【進め方】

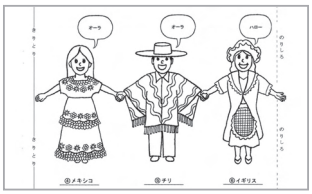
内容	備考、留意点など
1．図鑑やインターネットからの資料を参考に各国の民族衣装を確認する	・衣装の色合いだけではなく、肌の色なども確かめる。 ・各国の衣装それぞれに好んで使われる衣装の色などにも注目する ⇒ 好んで使われている色に何か意味があるのか注目する ⇒「国旗に使われている色と関係があるか？」など ・世界地図で国の位置を確認し、国旗を確認する。
2．ぬりえを始める	・ぬりえは資料の色合い通りに塗る必要はない。
3．各国のあいさつを確認する	・各国の子どもと将来、出会うことを想定し、「こんにちは」などの挨拶を確認する。

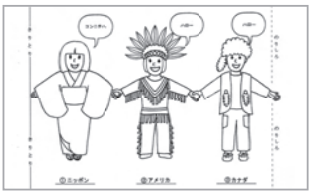
【応用アイデア】

・地域の催しなど様々な場で活用可能。
・可能なら、併せて実際に民族衣装を試着できるとよい。

【実際に行った感想・エピソード】

・自治体主催の催しで、人気第 1 位をいただいたアクティビティです。
・子どもだけではなく、幅広い年代の方まで楽しむことができます。
・子育て中のお母さんから「久しぶりに解放され癒されました」との感想をいただきました。





「ちきゅうにありがとう」ぬりえ

【活動内容】

宇宙、空、大地のぬりえ

【ねらい】

地球、世界に対する感謝の心を育み、生物多様性を理解する。宇宙観、世界観を育む。生命は人間だけではなく、大きなつながりがあることを知る。

【準備＆必要なもの】

・宇宙、空、大地のぬりえ　※入手方法は五井平和財団までお問い合わせください。
・色鉛筆やクレヨンなど
・宇宙の図鑑などの本、資料

【参考資料】

生物のイラスト画、宇宙の図鑑など

【進め方】

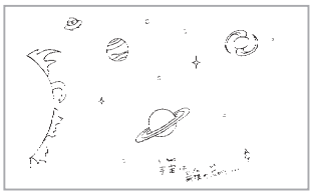
内容	備考、留意点など
1．①宇宙、②空、③大地のぬりえを配布、ぬりえを塗りはじめる。	・①宇宙→②空→③大地の順番で行うのが望ましい。 ・必要に応じて閲覧できるように図鑑を用意する。 ・子どもが自由に描けるように必要以上の指示はしない。 ・大きな宇宙の中の地球、地球の中の自分であることをイメージできるように指導員が子どもたちと対話するのも良い。 ・子どもがぬりえをしながら、いろいろと話かけてきたり、自分のことを語ったりする場合は、耳を傾けてあげる。
2．①②③が完成したらつなげる	・完成の喜びを分かち合う。⇒お友達同士見せあったり、一人ずつ発表したり、展示してもよい。

【応用アイデア】

・「土の中」「浅い海」「深い海」「マントル」のぬりえを用意すると、より大きな宇宙観、地球観を育むことができる。

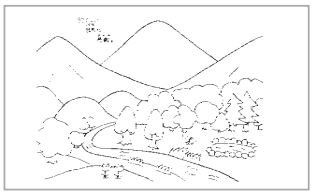
【実際に行った感想・エピソード】

・子どもたちは一生懸命取り組んでくれました。
・1 枚のぬりえに向かい、無心に描くことで、子どもの心が癒されたと思います。



＜宇宙＞

＜空＞



＜大地＞

宇宙の中の自分！

【活動内容】

自分の住む地域、日本、世界、そして宇宙について意識を広げていく。
オリジナルな惑星、星座を制作する。

【ねらい】

自分の住んでいる地域から地球、宇宙へと視点を広げ、自分たちが生きている世界を、知識や感性で実感する。
自分の住んでいる地域と世界のつながり、さらには地球と宇宙の関係を認識する。

【準備＆必要なもの】

・地球儀　・世界地図　・自分の地域の地図
・用紙、ペン、風船、ひも、モール、折り紙、スパンコール、アルミホイルなど

【参考資料】

「絵で見る宇宙大地図」ネコ･パブリッシング出版､「パノラマ大宇宙銀河の旅」平凡社､「宇宙たんけんたい　宇宙人っているの？」小峰書店 、「宇宙－その広がりを知ろう－」、新太陽系図　2007

【進め方】

内容	備考、留意点など
1．自分たちが住んでいる地域について知っていることを挙げる。地図で確認。 2．地域に住む在住外国人の出身国などについて話し合う。 3．地球儀や世界地図を使って、ニュースになっている国など世界の国々の話題に移る。	・「地域・世界」については宇宙に関するまでの導入として扱い、地域の特徴や名物、良い所などを自由に挙げてみる。 ・地域に住む外国人や、日本に一番多く在住している人々がどこの出身かあらかじめ調べ、「行きたい国や行ったことがある国」など、子どもたちが関心を持つテーマを投げかけて、場所を確認し合う。
4．宇宙に関する絵本や資料を見ながら、読み聞かせし、宇宙への関心を持たせ、宇宙の成り立ち、地球や惑星の位置や大きさを知る。	・「宇宙人」をキーワードに、宇宙に意識を向ける。
5．惑星づくり 風船、ひもなどを自由に使って自分のオリジナル惑星を作る。 6．点をつなぐ星座づくり 用紙に、たくさんの点を描き、その点を自由につないで、自分の星座を描く。	・制作では、子どもたちの自由な発想を大事にサポートしていく。

【応用アイデア】

・このアクティビティは、「地域」、「世界」、「宇宙」の３つの構成に分けて、順に取り組むとそれぞれの分野を丁寧に学ぶことができます。可能であれば、３日に分けて行うのも良いでしょう。

【実際に行った感想・エピソード】

・思った以上に、子どもたちは、宇宙や地球についてよく知っていました。
・惑星や星座づくりの制作活動に、とても熱中していました。
・少しの材料があれば、子どもたちは、独創的な作品を作り出せるのだと感心しました。
・大人は、きっかけづくりのサポートで十分なのだと実感しました。

お誕生会「自分の生命と向き合う」

【活動内容】

各月生まれのお誕生会を開催し、自分やお友達の誕生のエピソードを知り、祝う。

【ねらい】

誕生日という特別な機会を通じて、生命の奇跡と尊さに向き合い、自他それぞれが、かけがえのない存在であることを認識する。
自分と大生命のつながりを知り、共生してゆくことの大切さを知る。

【準備＆必要なもの】

・あらかじめお誕生日を祝う子の保護者に、子どもが生まれた時の状況や感動をつづった「誕生のエピソード」を用意してもらう。

【参考資料】

「世界は 1 つの生命からはじまった―サムシング・グレートからの贈り物」村上和雄・葉祥明 著、「いのちのまつり―ヌチヌグスージ」草場一寿 著、「いのちのまつり　つながってる！」草場一寿 著、「いのちのおはなし」日野原重明 著、「宇宙からの声」葉祥明 著、「しあわせってなあに？」葉祥明 著、「パラダイスゆき 9 番バス「もっと素敵な自分」への出発」葉祥明 著など。

【進め方】

内容	備考、留意点など
1．【参考資料】にあるような絵本の読み聞かせをする	・生命の尊さ、つながりなどが描かれているストーリーがよい ・読み聞かせだけで終わるのではなく、「自分の中に存在する 60 兆個もの細胞一つひとつがそれぞれの生命を使い、生かされている」「世界中の学者が集まっても細胞ひとつ人の力でつくることはできない」「お母さんのお腹の中で 38 億年の進化をたどって生まれてくる」「先祖の 1 人でも存在しないと自分の存在がない」などを解説するとよい
2．あらかじめ用意しておいた「誕生のエピソード」を読み上げる	・可能なら保護者が読んでもよい
3．良いところ探し（可能な場合）	・お誕生月の子の長所を色紙やカードなどに書いて、発表し、プレゼントする。
4．お誕生月の子からごあいさつ	・お誕生日をお祝いしてもらったお礼をみんなに伝える

【応用アイデア】

・月毎にお誕生会を開催するのもよいが、春生まれ、夏生まれなど季節ごとの開催もよい。
・「国連国際平和デー」や「アースデイ」などの記念日に合わせ「みんなの生命を祝う」行事として行ってもよい。
・「良いところ探し」は別のプログラムとして行ってもよい。

【実際に行った感想・エピソード】

・自分の誕生のエピソードを発表された子どもは照れているようだったが、とても嬉しそうだった。
・その後、場の雰囲気が変わった。

リサイクル楽器作り＆みんなで演奏

【活動内容】

資源ゴミや身の回りにあるものを生かして楽器を手作りし、演奏する。

【ねらい】

捨てられるか、リサイクルへ回るものを生かして楽器を作り、環境とリサイクルを考える機会にする。
自分で作った楽器を演奏することを通して、音楽の楽しさを体験する。

【準備＆必要なもの】

・ペットボトル、ヤクルト容器、米、砂利、ラップの芯、ガムテープ、空き缶、カップなど
・完成したリサイクル楽器を使って演奏する曲目 :「私のお気に入り」「海の見える街」「星に願いを」「ビリーブ」「トトロメドレー」「ディズニーメドレー」「崖の上のポニョ」他、みんなが知っている楽しい曲を用意。

【外部講師の依頼など】

・音楽大学の学生さんなど、キーボードなどで合奏のリードができる方を依頼することもよい。

【進め方】

内容	備考、留意点など
1．リサイクル楽器を作る。	・楽器はいずれも個性的なよい音のする「マラカス」と考えるとイメージしやすい。 ・ヤクルト容器は、中に砂利や米を入れ、二つをつなげる。 ・ペットボトルや空き缶の中に砂利や米を入れて口を閉じる。 ・ラップの芯は片方の口を閉じてから、砂利や米などを入れ、もう片側の口を閉じる。
2．出来上がったリサイクル楽器を持ち、演奏する。	・簡単な振り付けをして踊りを入れると一段と楽しく、リズムに乗ってみんながひとつになれる。

【応用アイデア】

・イントロクイズなどを演奏時に取り入れると、子どもたちの演奏したい気持ちが盛り上がる。
・演奏の曲目はたくさん用意しておくとよい。

【実際に行った感想・エピソード】

・材料や時間次第でさらにいろいろな種類の楽器を手づくり出来るが、今回は身近にあるリサイクル材で出来るマラカス状の打楽器づくりに専念した。その結果、楽器を比較的短時間に完成することが出来、演奏そのものを楽しむ時間も取れた。
・たくさんの曲を演奏することは楽しい。子どもたちは一生懸命演奏に取り組み、音楽の素晴らしさに浸ることが出来た。
・平成 20 年 12 月 13 日（土）に開催された「全国手づくり楽器アイデアコンテスト '08」手づくり部門において、「ゆめマラカス」として教育委員会賞を受賞しました。

エコ工作「ガラスビンに絵を描こう」

【活動内容】

ガラスビンに好きな絵や模様を描く。

【ねらい】

環境とリサイクルへの意識を根底に、ものを大切にする心や知恵を学ぶ。捨てられ、リサイクルされるガラスビンを、自分の手で美しいアートに変身させ、その過程で環境問題への興味や責任感を引き出す。

【準備＆必要なもの】

・専用ラッカー（Armour Etch）：画材店、Do it 店などで入手可能
・へら、工作マット、カッター、はさみ、空きビン、シールシート、鉛筆など

【進め方】

内容	備考、留意点など
1．「模様や絵を描いて素敵に変身させましょう！」と、ビンをリサイクルすることを説明する。 2．いろいろなガラスビンから各々が一つずつ選ぶ。	・ビンの表面が平滑なもののほうがやりやすい。
3．シールシートに好きな絵を描き、カッターで切り抜き、ビンに貼る。	・カッターを使うときは、机を傷つけないようにシールシートの下に厚いボール紙やカッターシートを敷く。 ・カッターで切り抜く作業は以外に難しく、時間がかかる。小さい子どもたちには補助が必要。
4．Armour Etch をシートが貼られていないところに塗る。 5．乾かして、シートを剥がし出来上がり。	・はさみを使用するのもよい。

【応用アイデア】

・厚紙で出来たお菓子の箱などに、彩色したり、きれいな色の包装紙やスパンコールなどを張り、マイ・ボックスを作成する。プレゼントを入れる箱としても使える。捨てられてしまうものを生かす知恵を学ぶ。

Ｔシャツリメイク

【活動内容】

着なくなったＴシャツをリメイクする。

【ねらい】

ものを大切に最後まで工夫して使う心を育む。
古いものを甦らせ、使う喜びを知る。
エコの原点「ありがとう」という感謝の気持ちを引き出す。

【準備＆必要なもの】

・着なくなったＴシャツ、使わなくなったハンカチ、端切れ、アップリケ、リボン、レース、着なくなった洋服のボタン、布に直接描けるペン、布用ボンド、針、糸、布用はさみ、糸切りはさみ、アイロンなど。

【進め方】

内容	備考、留意点など
１．着なくなった衣類の使いみちを考える。	・①小さくなった衣類 ⇒ お下がりや掃除に使う②汚れてしまったり、飽きてしまった衣類 ⇒ リメイクするなど。
２．用意したＴシャツとともにどんな思い出があったか思い出す。	・①家族と出かけた時に来ていた…②お友だちに似合うねと褒められた…③おじいちゃん、おばあちゃんに貰った…などのエピソードを思い出す。
３．色々な思い出に寄り添ってくれたＴシャツへの感謝の気持ちを確認し、新しくリメイクするＴシャツのデザインを考える。	・Ｔシャツに対して「ありがとう」の気持ちを込め、もっと素敵になるように新しいデザインを考える。 ・汚れがある部分を隠すようにするなど工夫する。
４．Ｔシャツのリメイクに取りかかる。	・デザインに合わせ、端切れでアップリケを作成し、布用ボンドや針、糸で縫いつけたり、布用のペンで絵を描いてもよい。 ・リボンやレースを工夫して使ったり、市販のアップリケを使用してもよい。
５．完成したＴシャツを着てみて発表する。	・それぞれの作品の良いところを発見する。

【応用アイデア】

・使わなくなったハンカチでアップリケを作ったり、着なくなった洋服のボタンを付けたりと、すべてリサイクルの素材を使用するのもよい。
・着物は仕立て直しをして何世代も着続けることが出来るなど、日本の伝統文化とエコを結びつけ、発展させてもよい。
・Ｔシャツでなくてもよい。

未来のカレンダー作り

【活動内容】

翌月または３カ月毎のカレンダーを自分で作る。

【ねらい】

カレンダーを自分で作ることによって、毎日を大切に過ごそうという気持ちを育む。
計画的に過ごすことを意識させ自主性を育む。

【準備＆必要なもの】

・画用紙、マジック、色鉛筆、クレヨンなど

【進め方】

内容	備考、留意点など
１．カレンダー作りの手順を説明する。	・カレンダーづくりの目的を説明する。
２．画用紙に日付、曜日を入れる。	・毎日を大切に過ごせるように意識することを説明する。
３．用紙の上半分の空いているスペースに、絵を描いたり、折り紙や毛糸を貼ってアートを描く。	・翌月、３カ月後など「なりたい自分」や「未来像」をイメージできるようにしてもよい。

【応用アイデア】

・カレンダーに描く絵はあくまで自由制作だが、子どもたち一人ひとりに翌月の夢などをイメージさせるのもよい。また、自分だけではなくお友だちや家族、環境がどのようになっていたらよいかをイメージさせてもよい。
・折り紙、毛糸、布の端切れなどを用意してもよい。
・時間に余裕のある場合は 12 カ月分のカレンダーを作成してもよい。

【実際に行った感想・エピソード】

・出来上がったカレンダーを見せてもらって、ほめるとみんなとても嬉しそう。ほめることの大切さを感じた。
・子どもたちの中には、ていねいに作る子どももいれば、大雑把に作る子どももいる。大人は、それらの作品の中のよく出来たところを探すことが大切と感じました。

ハンディキャップに寄り添うには

【活動内容】

ハンディキャップを持つ人々について知る。
点字、手話など、ハンディキャップを持つ人々のコミュニケーション方法、身体的工夫を疑似体験する。

【ねらい】

「ハンディキャップを持つ人々が安心して暮らせる社会」を実現するためにも、私たち一人ひとりが、その立場を理解し、互いに協力し合いながら、さまざまな課題に力を合わせて取り組んでいくことを目指す。
そうした理解を促すためにも、日常生活の中で、ハンディキャップを持った方々がどのような場面や状況で自由・不自由を感じているのかを想像して疑似体験し、思いやりの心や理解を養う。

【準備＆必要なもの】

・筆記用具、紙、てぬぐいやハンカチなど、マーカー、画用紙、点字用紙

【参考資料】

・「今日からは、あなたの盲導犬」 岩崎書店刊、「介助犬ターシャ」大塚敦子著　小学館、「ふれあいの手話２あいさつをしてみよう」 学習研究社、「はじめてのボランティア　点字であそぼう」 同友館、「てではなそう４おいしい！」 PARCO 出版

【進め方】

内容	備考、留意点など
１．本の読み聞かせをきっかけにして、福祉について話をする。 ２．書く →「はじめてのボランティア　点字であそぼう」の本を読み聞かせ、点字用紙を使って点字でお友達とコミュニケーションをしてみる。 ３．手話 →「ふれあいの手話２あいさつをしてみよう」の本を参考にして、手話を知り、ジェスチャーを使ってお友達に言葉を伝えてみる。	・上記参考資料などを読み聞かせして、福祉の世界に導入していく。子どもたちがイメージしやすいように配慮し、丁寧に話を進めていく。 ・まずは、大人が手話でコミュニケーションする。モデルを披露し、チャレンジするきっかけづくりを工夫する。
４．身体を使って →「介助犬ターシャ」の本を参考に、盲導犬の仕事を知り、役割を決めて、疑似体験する。 ５．「てではなそう４おいしい！」を参考にして、手が使えない状態を体験する。口や足を使って、絵を描いてみる。 ６．１～５を体験してみて、感じたことを話し合う。	・盲導犬の役割を理解し、２人ひと組になって活動してみる。１人は目かくしをし、もう１人はリードする役割をする。 ・危険な動きにならないよう、十分注意をする。

【応用アイデア】

・簡単なコミュニケーションから発展して、「手話ソング」にチャレンジしてみるのもよい。
・実際にハンディキャップを持ったお友だちと一緒に過ごす機会を作ることも、大切。

【実際に行った感想・エピソード】

・話や説明だけで、「福祉」を知るより、体験すること、人との触れ合いの中から感じてみることが、子どもたちには大切なのだと実感しました。
・好奇心や遊び感覚で点字や手話などを体験してみましたが、この体験が、実際ハンディキャップの方々に出会った時に、必ず活かされるのだと思います。

子どもが先生になる日

【活動内容】

子どもが先生となり、自分の得意なこと、好きなことを教える。（おりがみ、簡単な手芸、ゲーム、など）

【ねらい】

自分の得意なこと、好きなことを通して表現できる喜びを知る。
人に教えることで自分の特技や好きなことがより進歩することを理解する。
任されることで自信をつけ、リーダー精神を養う。
伝えること、聞くことを通してコミュニケーション能力を養う。
年上の子が年下の子のサポートが出来るようになり、異年齢間の遊びを充実させる。
大人も子どもから学ぶ。

【準備＆必要なもの】

子どもが教えたいことに準じて用意する。

【参考資料】

子どもが教えたいことに準じて用意する。

【進め方】

内容	備考、留意点など
1．準備	・子どもの教えたいことを聞き、それに合わせて準備のサポートをする。 ・皆で楽しめるような内容にすることをアドバイスする。（簡単な手芸などのものづくり、ゲームなど） ・材料など必要な場合、揃える。 ・教える際の伝え方を子どもと一緒に確認する ・安全性に配慮する。
2．導入 ・（子どもから）やることの説明 ・（子どもから）やり方の説明など	・大人が最初に「今日はＡさんが得意な○○を教えてくれます」ときっかけを作ってあげる。 ・形態は自由であるが、自然に和気あいあいと触れ合える距離感を大切にする。例）輪になるなど ・説明をうまく伝えられない場合は、大人が質問を投げかけて伝えたいことを引き出してあげる。
3．展開 ・作業の開始	・年下の子へ十分な配慮が出来るように促す。 ・作業に遅れが出ても皆で協力して他のお友だちをサポートするよう促す。 ・分からないことは、大人も子どもに質問する。 ・大人は安全には配慮しながらも必要以上に手を出さず、子どもの様子を見守る。 ・評価が目的ではないので、良かった点をなるべくたくさん子どもに伝え、次へつながるようにする。

【応用アイデア】

・１人の子どもだけではなく、数人の子どもが先生となり共同で企画をするのもよい。
・地域の行事（おまつりなど）へ参加してもよい。（地域の一員である自覚を育み、地域へ貢献することの喜びを体験する）

即興劇にチャレンジ！

【活動内容】

一人ひとりの想像力や表現力を最大限活用して、友だちと一緒に即興劇を創作する。

【ねらい】

固定観念・概念にとらわれず、さまざまな状況を演技することにより、想像力や豊かな感性、表現力を養う。自分の中から湧き出てくる感性を、素直に表現することの心地よさを知る。
また、その感性を判断、評価なしに受け入れ認められることで、自らもありのままの自分を受け入れ認めていく。自分自身に対して、自信と寛容の気持ちを持つことができれば、相手に対しても寛容になることが出来ることを実感していく。

【準備＆必要なもの】

・動きやすい服装、タオルなど、音楽曲（例：EXIL chuchuTrain, Lion&Stich FEATURING SONG）

【参考資料】

・プレイバック・シアター入門　明石書店 出版、即興劇のアイディアのきっかけになる物語（桃太郎、人魚姫など）

【進め方】

内容	備考、留意点など
1．ウォーミングアップ、柔軟体操・発声など	・「即興劇」に取り組む前に、ウォーミングアップによって、表現することに対しての抵抗感を減らす。 ・身体ほぐしは、心ほぐし。 ・声を出しやすいようリードしていく配慮をする。 ・遊びながらリズムに乗ることで、踊りという表現に対する抵抗感を減らし、楽しめるように導く。 ・決して強制しないこと。
2．2つのグループに分かれ、「もしも○○だったら・・・」のテーマ内容をグループ内で相談し、決定する。	・例「もしも桃太郎が鬼が島へ行った時に、鬼たちが結婚式をしていたら・・・」など。 ・子どもの発想力を全て認め、自分の力で創れるようにサポートする。
3．テーマが決定したら、グループごとに演技する。それぞれのグループの演技を鑑賞し合う。	
4．演技してみての感想を話し合う。	

【応用アイデア】

・「創作ダンス」や「プレイバック・シアター」、「朗読劇」など、チャレンジしてみるのもよい。
・ひとつの完成された物語を、長期的に取り組むことに発展させることも出来る。

【実際に行った感想・エピソード】

・ポイントは、楽しい雰囲気づくりと子どもの心を開かせることです。子どもたち自身が「楽しい！やりたい！」と感じれば、自然に創造し行動していきます。
・サポートする大人たちが、一切否定的な言葉を使わず、肯定的な言葉のみで子どもに接することで、愛と思いやりの空気が作られ、子どもたちの中から、「出来る」、「やってみる」という気持ちが生まれました。
・テーマ作りのサポートになる、ヒントや質問をすることで、子どもたち自らの発想が引き出され、劇を作ることが出来ました。
・「人とのコミュニケーションの取り方」、「異なる立場の者同士が思いやりを持って助け合うことの尊さ」など、劇づくりを通して学べることを吸収していく姿に感動しました。

食育「エコな食材・大豆を知ろう！」

【活動内容】

大豆のお話とおからクッキーの調理実習

【ねらい】

栄養豊富で様々な食品に加工が可能な上、余すところなく使えるエコな食材・大豆を知る。
日本の食と文化を支えている大豆を知る。
調理実習をすることで実際の食材にふれる。

【準備＆必要なもの】

・大豆の写真か絵または実物、大豆加工食品の写真か絵または実物、世界地図など。
・おから、小麦粉、卵、砂糖、豆乳、バター、バニラオイル、オーブン、めん棒、オーブン紙、ボール、ゴムベラ、ポリ袋など。　※材料の品目・量などは参考にしたレシピに準ずる。

【参考資料】

・農林水産省「大豆のホームページ」など。
・おからクッキーの各種レシピなど

【進め方】

内容	備考、留意点など
1．大豆は体に良く、エコな食材であることを知る	・大豆は栄養豊富で豆腐、醤油、味噌、豆乳、納豆、きな粉、ゆば、おからなど余すところなく様々な食品に加工されエコであることを伝える ・写真や実物を見せたり、クイズ形式にしてもよい
2．大豆が日本の食や文化を支えていることを知る	・大豆は日本食に欠かせないが、多くは輸入されていて、日本の食や文化には様々な国が関わっていることを伝える ・大豆が登場する日本の伝統行事「節分」などを伝える
3．調理実習	・おからは、豆腐を製造する過程で、大豆から豆乳を絞った後に残ったものであることを説明してから、調理を始めるとよい ・安全には十分配慮する ・水の使い方、食材を無駄なく使うことなどを伝える
4．会食	・「いただきます」の挨拶の際には、食材そのものやそれを作り、届けてくれた人たちへの感謝の心を込めることが大切であることを伝えるとよい

【応用アイデア】

・調理実習は「おからクッキー」に限らず、豆腐や味噌など他の大豆加工食品を使ったものでもよい。
・調理実習ではなく、大豆加工食品や枝豆、もやしなどの食べ比べもよい。
・節分など大豆が登場する日本の伝統行事と合わせてもよい。
・大豆の多くを輸入している世界の国々について発展させ、世界の人々へ感謝の気持ちを育む。

【実際に行った感想・エピソード】

子どもたちは、楽しみながら、やったことをストレートに受け止め、吸収してゆくと感じました。

食べものを大切に「エコのみ焼き」

【活動内容】

季節の野菜や食べものを知る。
野菜の皮や芯など捨ててしまうような部位を積極的に使ったエコ・クッキング。

【ねらい】

野菜の名前や旬を知り、自分で調理することでより身近なものとする。
食べものを出発点に、季節を感じ、大自然の大きな流れを感じながら、感謝の心を育む。

【準備＆必要なもの】

・野菜 (キャベツは必ず用意、芯、しいたけの軸、ほうれん草の茎や根、にんじんの皮、ピーマンの種など捨ててしまいがちな部分も)、豆腐、チーズなどお好み焼きの具になるもの
・小麦粉、卵、水、お好み焼き用ソースなど調味料
・ボール、子供用の包丁、ホットプレート、割り箸、紙皿など
・紙、カラーペンなど野菜や食べものの絵を描けるもの（必要に応じて）

【参考資料】

・野菜図鑑など

【進め方】

内容	備考、留意点など
1. 用意した野菜の名前を知る。 2. その季節の旬の食べものを思い出す。	・野菜を身近に感じることが大切。 ・好き・嫌いを超えて、人間にとって大切な食べ物であることの理解を促す。 ・旬の食べものは、現物でなくても、絵を描いたり、図鑑を見たりしてもよい。
3. 調理	・包丁は取り扱いに注意すれば、危なくないことを説明し、練習する。 ・捨ててしまいがちな野菜の部位を、ていねいに扱い、生かすことの大切さを知る。細かく切って具にする。 ・自分で調理することの楽しさを知ってもらう。
4. 会食	・自分で料理すると、嫌いな野菜も意外と食べられ、好きになれる。 ・自分の家ではどんなお好み焼きをしているかを話題にするのもよい。食の世界が広がる。

【応用アイデア】

・食べものの色（赤、黄、緑）の栄養・働きを知り、いろいろな色のものを食べるとよいと学ぶことも出来る。
・メニューには、焼きそばもよい。様々な具を入れることが出来るものが望ましい。
・調理体験を通じて、いつも料理をしてくれるお母さんへ感謝する時をもうける。

【実際に行った感想・エピソード】

・「ピーマンきらい」と言っていた子どもたちが、自分で焼いてしっかり食べていました。
・会食では、学習や調理の時のことを振り返って、みんなで笑いました。みんなが楽しめました。

農業体験

【活動内容】

農作物 (野菜や米) の栽培や収穫を体験する。
※種まきや収穫など一部の作業の体験、可能なら一定期間の栽培を体験する。

【ねらい】

継続して世話や観察をすることで、自然への感謝の心や、生命を大切にする心、地球を大切にする心を育む。
自然の素晴らしさを感じ、より深く地球環境を理解すると共に「生きる力」を育む。
自ら育てた作物を収穫していただくことで、食べ物への感謝と自分の体を作る「食」に関心を持ち、考える機会を持つ。

【準備＆必要なもの】

・地元の農家の方をはじめとする地元協力者の方との連携

【参考資料】

・実際の経験者の方からのお話やご指導

【進め方】

内容	備考、留意点など
＜野菜の場合＞ ・種まき ・栽培（水やり、肥料、草むしりなど） ・収穫 ＜お米の場合＞ ・田植え ・稲刈り ・はぜかけ ・脱穀 ＜収穫祭＞ 収穫した農作物の試食会	・栽培する作物については、育てやすいものや収穫した時に楽しめる作物を選ぶと良い（地域の特産物、サツマイモ、豆類、お米など）。 ・いずれの作業も用具の扱いには十分注意するよう気をつけるが、なるべく色々な作業を体験できるようにする。 ・作物に配慮しながらも土に直かに触れて思う存分楽しめるようにする。畑や田んぼの生き物とも触れ合う。 ・生命力に触れられるよう配慮する。 ・作物のありがたさ、一つひとつが生命であることを伝える。 ・収穫祭では郷土料理を取り入れたり、地域の方々に振舞うのもよい。

【応用アイデア】

・地域で企画された農作業体験のプロジェクトに参加する。
・野菜の代わりに他の植物を花壇やプランターで育てるのもよい
・阪神淡路大震災の復興で象徴的な「はるかのひまわり」をはじめ、地域にまつわる植物を育てるのもよい。
・お米の場合は、藁でお正月用のお飾りなど藁細工に挑戦する。

【実際に行った感想・エピソード】

・嫌いだった野菜が食べられるようになり、自分たちで育てた作物に関心を示しました。
・スーパーで売っている状態ではない野菜の姿を楽しんでいるようでした。
・食べ残しが減るなど、意識が変わりました。田植え、稲刈りを体験した子どもは、家庭でお母さんに「ごはんを残してはいけない」と伝えたそうです。

活動参考資料集

本年度のテーマ「子どもの自発性や創造性を高め、持続発展教育 (ESD) を推進する活動モデルづくり」に関連する、活動や教材の参考となるホームページや参考図書等をご紹介いたします。

ホームページ

＜日本政府＞

	文部科学省 http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/jizoku/index.htm 文部科学省の ESD 関連ページ
	日本ユネスコ国内委員会 http://www.mext.go.jp/unesco/004/004.htm 日本におけるユネスコ活動に関する助言、企画、連絡及び調査を行う日本国内委員会（文部科学省内に設置）の ESD 関連ページ
	環境省 ESD の 10 年促進事業 http://www.env.go.jp/policy/edu/esd/index.html 環境省の ESD 関連事業を紹介
	外務省 ESD 関連サイト http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/kankyo/edu_10/10years_gai.html 外務省による ESD の概要説明
	「国連持続可能な開発のための教育の 10 年」関係省庁連絡会議 http://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kokuren/index.html 内閣に設置された「国連持続可能な開発のための教育の 10 年」関係省庁連絡会議の関連ページ
	JICA 地球ひろば http://www.jica.go.jp/hiroba/index.html JICA（独立行政法人国際協力機構）制作のページ
	JST バーチャル科学館 http://jvsc.jst.go.jp/index.htm 科学技術振興事業団のページ 生命から宇宙のことまで様々な疑問を調べることが出来ます。
	国立民族学博物館　〒 565-0826 大阪府吹田市千里万博公園 10-1 TEL; 06(6876)2151　FAX: 06(6876)7523 http://www.minpaku.ac.jp/ 世界のさまざまな民族の文化と社会が地域別に展示されている博物館。ホームページの「催し・イベント」から展示品の詳しい解説を見ることが出来ます。

	国際子ども図書館　〒 110-0007 東京都台東区上野公園 12-49 TEL: 03(3827)2053　FAX: 03(3827)2043 http://www.kodomo.go.jp/index.jsp 世界の様々な国と地域の児童書を閲覧することが出来る 日本初の国立の児童書専門図書館

＜ NGO・NPO ＞

	「持続可能な開発のための教育の 10 年」推進会議（ESD-J） http://www.esd-j.org/（日本語） http://www.esd-j.org/en/（英語） 市民のイニシアティブで " 持続可能な開発のための教育 " を推進するネットワーク団体
	財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU） http://www.accu.or.jp/ アジア太平洋地域諸国の文化の振興と相互理解に寄与することを目的に日本政府と民間の協力によって設立された財団法人
	社団法人日本ユネスコ協会連盟（NFUAJ） http://www.unesco.jp/ 民間ユネスコ運動を推進している全国のユネスコ協会の連盟体
	『世界遺産　ユネスコ隊員パック』 http://www.unesco.jp/contents/isan/pack1.html 世界遺産条約の精神に関する児童・生徒の理解促進のための教材
	『ユネスコピースパック』 http://www.unesco.or.jp/teacher/kyozai_f/pp/pp_01.htm 「平和の文化国際年」を日本の子供たちに分かりやすく説明する教材
	NPO 法人 日本 UNHCR 協会 http://www.japanforunhcr.org/ 日本における UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）の公式支援窓口
	子どもと先生の広場 http://www.unicef.or.jp/kodomo/index.html 財団法人日本ユニセフ協会が制作した ユニセフ（国連児童機関）の活動について学べる子ども向けページ

	NPO 法人 アジア太平洋資料センター（PARC） http://www.parc-jp.org/ 南と北の人びとが対等・平等に生きることのできるオルタナティブな社会をつくることを目指して市民活動を展開している NPO 法人
	NPO 法人こども環境活動支援協会（LEAF） http://leaf.or.jp/（日本語） http://leaf.or.jp/e100index.htm（英語） 市民・事業者・行政が連携、協働し、子どもたちの環境活動を地域や学校などあらゆる場において支援すること目的として活動する NPO 法人
	地球キッズ環境ネットワーク http://www.chikyu-kids.net/index.cgi?l=ja（日本語） http://www.chikyu-kids.net/index.cgi?l=en（英語） 世界 8 ヶ国の環境団体のメンバーが運営しているウェブサイトで、世界中の子どもたちがどのような環境活動をしているかを紹介
	NPO 法人こどもプロジェクト http://kodomo-project.com（日本語） 社会全体で子育てをする環境作りを目指して活動している NPO 法人
	NPO 法人 宇宙船地球号 http://www.ets-org.jp/index.html（日本語） http://www.ets-org.jp/ENGLISH/index.html（英語） 「本当に意味のある国際協力とは何か？」を考え「持続可能な社会の構築」に貢献する人物を育てための活動を行っている NPO 法人

＜国際機関＞

	国際連合教育科学文化機関（UNESCO） http://www.unesco.org/education/desd/（英語） ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）の ESD 関連ページ
	国連大学（UNU） http://www.unu.edu/esd/jp/index.html（日本語） http://www.unu.edu/esd/index.html（英語） 国連大学（UNU）の ESD 関連ページ
	国連キッズ http://unic.or.jp/kids.htm（日本語） 国連広報センターが制作した子ども向けページ

	国連難民高等弁務官事務所（UNHCR） http://www.unhcr.or.jp/（日本語） http://www.unhcr.org/home.html（英語）
	国連世界食糧計画（WFP） http://www.wfp.or.jp（日本語） http://www.wfp.org（英語）
	人道援助ゲーム「フードフォース」（ゲーム） http://www.foodforce.konami.jp/（トップページ） http://www.wfp.or.jp/activities/story_detail.php?seq=34（教師用ガイド） 国連世界食糧計画（WFP）が、財団法人上月スポーツ・教育財団の協力で制作した学習用ビデオゲーム
	『学校給食プログラム紹介冊子』 http://www.wfp.or.jp/activities/sfp.html#sfp 国連世界食糧計画（WFP）が推進する「学校給食プログラム」の様々な資料をダウンロード可能
	国連食糧農業機関（FAO） http://www.fao.or.jp（日本語） http://www.fao.org（英語）
	アセアン キッズ センター http://www.asean.or.jp/kids/index.html 国際機関日本アセアンセンター（東南アジア諸国連合貿易投資観光促進センター）制作のアセアン諸国について面白く楽しく学べる子ども向けページ

＜教育・研究機関＞

	国連大学高等教育研究所（IAS-UNU） http://www.ias.unu.edu/default.aspx（日本語、英語）
	立教大学 ESD 研究センター（ESDRC） http://www.rikkyo.ac.jp/research/laboratory/ESD/index2.html（日本語） http://www.rikkyo.ac.jp/research/laboratory/ESD/eng/index.html（英語）

	国際理解教育プログラム（EIUP） http://www.gsid.nagoya-u.ac.jp/eiup/（日本語） 名古屋大学大学院国際開発研究科内に設置された国際理解教育プログラム（EIUP）のページ
	NPO 法人 開発教育協会 http://www.dear.or.jp/index.html（日本語） http://www.dear.or.jp/english/english.html（英語）
	NPO 法人 ERIC 国際理解教育センター http://eric-net.org/
	小学生のための環境リサイクル学習ホームページ http://www.cjc.or.jp/j-school/ 財団法人 クリーン・ジャパン・センター （持続可能な省資源型社会の形成を推進する事業団体）の子ども向けページ
	泥だんごのホームページ http://www2.ocn.ne.jp/~tutimizu/ 誰でも一度は夢中になったことのある泥だんご作り。その泥だんごを光り輝く玉にする名人の作品やノウハウが満載。日本泥だんご科学協会 (ANDS) の公認サイト

＜参考情報リンク集＞

	日本の科学館めぐり http://museum-dir.jst.go.jp/ 全国の科学館を 「基礎自然科学」「先端科学」などのキーワード検索できるサイト
	地図のリンク集 http://www.hir-net.com/link/map/index.html 日本・世界の地図のほか衛星写真、航空写真のページへリンク
	Embassy Avenue http://www.embassy-avenue.jp/ 日本国内の各国大使館のホームページリンク集

参考図書（50 音順）

書籍名	著者・編者	出版社	価格（税込）
あなたが世界を変える日 12 歳の少女が環境サミットで語った 伝説のスピーチ	セヴァン・カリス＝スズキ／著 ナマケモノ倶楽部／編・訳	学陽書房	1,050 円
遺伝子が語る「命の物語」三八億年の 奇跡となぞ、かぎりない可能性	村上和雄／著	くもん出版	1,470 円
いのちのまつり	草場一壽／著、平安座資尚／絵	サンマーク出版	1,500 円
「家庭で出来る食育」 お母さんと子どもの食育いろはかるた	池田多鶴子／著	文芸社	1,470 円
CosMos	アーヴィン・ラズロ、 ジュード・カリヴァン／著 村上和雄／監修 和波雅子・吉田美知世／訳	講談社	1,785 円
子どもが育つ魔法の言葉	ドロシー・ロー・ノルト、 レイチャル・ハリス／著 石井千春／訳	PHP 研究所	1,500 円
持続可能な未来のための学習	阿部治、野田研一、 鳥飼玖美子／監訳	立教大学出版会	7,980 円
しばわんこの和のこころ	川浦良枝／絵・文	白泉社	1,470 円
図解フィンランド・メソッド入門	北川達夫、フィンランド・ メソッド普及会／著	経済界	1,500 円
せいめいのれきし	バージニア・リー・バートン／ 文・絵、いしいももこ／訳	岩波書店	1,680 円
世界がもし 100 人の村だったら	池田佳代子、 マガジンハウス／編	マガジンハウス	1,000 円
世界と地球の困った現実 まんがで学ぶ開発教育 飢餓・貧困・環境破壊	日本国際飢餓対策機構／編 みなみななみ／漫画	明石書店	1,260 円
世界は１つの生命からはじまった サムシング・グレートからの贈り物	村上和雄、葉祥明／著 矢野裕巳／対訳	きこ書房	1,000 円
タオ	老子／〔原著〕 加島祥造／〔訳〕著	筑摩書房	1,785 円
地球では 1 秒間に サッカー場 1 面分の緑が消えている	田中章義／編著 山内マスミ／絵	マガジンハウス	1,000 円
地球の子どもたちへ	シム・シメール／著・絵 小梨直／訳	小学館	1,481 円
地球ばんざい	まどみちお／著、長新太／絵	理論社	1,365 円
日本が 100 人の村だったら 今の日本昔の日本	水野かおる／著	データハウス	819 円
フィールド 響き合う生命・意識・宇宙	リン・マクタガート／著 野中浩一／訳	インターシフト	3,360 円
プランＢ３．０ 人類文明を救うために	レスター・ブラウン／著 木村ゆかり／ほか訳	ワールドウォッチ ジャパン	2,625 円

価格などは平成 21 年 1 月現在のもの。

参考資料　放課後子ども教室の開設・運営・管理マニュアル

開設にあたって

□　行動規範・ねらいの共有

３つのお約束（本報告書附属編「活動アイディア＆マニュアル集」2ページ参照）

複数の人々が集まる場では、行動規範を持つことによって、自由さの中でも子ども自身がそれを心に留め、約束を守ろうと自ら取り組みます。子どもたちとルールを共有しておくことが、誰もが安心して過ごすためにたいへん重要なものとなります。

①　人にめいわくをかけない
②　自分のことは自分でする
③　あまった力で、人の手助けをしよう

４つのねらい（本報告本編6ページ参照）

下記のようにねらいを掲げることで、居場所の方向性を明確にすることができます。

①自立　②調和　③地球理解　④愛と平和

□　子ども居場所１０か条（本報告書附属編「活動アイディア＆マニュアル集」3ページ参照）
□　放課後子ども教室に携わる市区町村などの行政窓口との相談
□　協力スタッフの確保　（参加者数に対応可能な人数）
□　活動場所の確保（学校・公共施設、自宅など）

開催場所について

○　安全面に配慮し、会場の周辺の環境をチェック。
　交通量、人通りがあり人の目があるか、歩道は整備されているか等を考慮に入れるとよいでしょう。
○　学校の側や公共の施設、民間のカルチャールーム、自宅等の開催が可能。
○　利用料金等を考慮し、継続実施可能である施設を選択。

□　参加者の確認

参加者について

○　基本的な参加者の対象は小学校１年生から中学校３年生、および保護者。
○　幼児の参加の希望がある場合は、保護者と要相談。
○　ハンディキャップのある児童の参加の希望がある場合、可能な範囲で対応しましょう。参加を受け入れる際は、基本的には保護者の方の付き添いをお願いしてください。保護者の方と十分に相談しながら、その上で対応することが大切です。

運営・管理について

□　実施予定などスケジュール管理
□　各地域の実情に応じた活動プログラムの企画
□　学校・家庭・地域間の連絡調整
□　広報活動（開催ポスター、チラシなどの作成配布など、活動の PR）
□　安全管理の徹底
□　緊急連絡簿の整備
□　保険加入の有無
□　庶務（教材や必要な消耗品などの手配）
□　会計：出納管理など（領収書整理・保管を含む）
□　様々な地域ネットワークの構築
□　実情に応じた活動プログラムの企画・開発
□　教室実施のための準備・片付け

＊運営に当たっては、予算や参加者の人数、年齢、開催場所に合わせた適切な内容の設定を前提としてください。

開催回数と開催時間について

□　継続実施可能な開催回数を検討しましょう。
月１～３回程度が、無理のない回数でしょう。市区町村からの予算措置を前提に、集団下校や学童保育の補完的役割として位置づける場合などは、回数を増やすこともあるでしょう。夏休み中は平日を中心に開催回数を増やすことができれば、保護者のニーズと合致するようです。数日に亘り連続開催をしてもよいでしょう。夏休みの自由研究へのサポートをプログラムに取り入れるとさらに充実したものとなります。

□　平日開催の場合は、低学年の授業が終わる時間に合わせて、午後２時半くらいから開場。
高学年の授業が終わり、全員が集合した時点でプログラムを始めると自然な流れになります。

□　土日などの休日に開催する場合は、午前のみ、午後のみ、または午前午後両方など、ニーズに合わせた時間帯の開催が可能。

□　親子参加のプログラムは休日開催がよいでしょう。ただし、日曜、祝日は平日に比べて参加者が少ない傾向にあります。

□　終了時間については、夏場は５時半、冬場は４時半など日没の時間に応じて変更することがよいでしょう。

保護者との連絡について

□　保護者への連絡事項は、子どもに口頭で伝えるのではなく、書面を用意し保護者の方へ確実に渡るようにしましょう。

協力・連携について

家庭、学校、地域の協力により、放課後の子どもたちの活動を見守ることが重要です。地域に密着した活動は、地域活性化にもつながります。そして、地域の皆様から信頼いただける場になってゆくことで、活動そのものが持続可能となります。

安全管理について

安全面に十分配慮するために、文部科学省が作成している安全管理マニュアルをスタッフ全員が確認しましょう。その上で各広場に応じたマニュアルを作成しましょう。また、ボランティアにより運営されている場合は、そのことを保護者の方へご理解いただき、基本的に保護者、児童が自己責任の原則を了解の上で参加していただくよう、必ず説明してください。

【放課後子どもプランホームページ】
※文部科学省が作成した「安全管理マニュアル」が掲載されています。
http://www.houkago-plan.go.jp/houkago/img/attention.pdf

以下は、文部科学省作成の「安全管理マニュアル」を参照し、実際の教室運営と照らし合わせて確認した事項の一例です。

□　事前の参加者の把握
安全のため、不特定多数の子どもが自由に出入り可能な方式ではなく、参加登録申し込み制にしておくと、参加する子どもの状況を把握するのによいでしょう。

□　参加登録申し込み時に「アレルギー、持病」などについては必ず調査してください。アレルギーは調理実習のメニューや食材を決める際に重要な情報となります。

□　ケガのとき
１．事態発生
２．スタッフに直ちに報告
３．救急車かタクシーどちらで運ぶかを決定
４．保護者へ連絡する。

５．救急車へ通報かタクシーで病院へ行く。
６．残ったスタッフで活動の続行または中止の判断をし、残った子どもの安全を確保する。

□　体調不良になったとき
１．症状を確認する。
２．検温　※内服薬は、独自の判断では絶対に飲ませないこと。
３．保護者に連絡する。
４．状況によっては、病院へ搬送または救急車を呼ぶこと。

□　不審者対応について
・　事前に不審者情報を交番などから収集する。
・　受付を通らないと会場へ入れないなどの措置をする。
・　死角になる場所などを確認しましょう。

□　地震のとき
1. 身の安全を確保する（子どもの頭をかばうように）。
2. 子どもを一カ所に集め、全員が揃っているか確認する。
3. ガスの元栓を締め電気のブレーカーを落とすこと。
4. 揺れが完全に収まるまで外に出ないこと。
5. 火災が発生したら初期消火する。
6. 火災が大きくなったらすぐ避難する。
7.「広域避難場所」へ集団で避難する。
8. 保護者へ連絡　※保護者への連絡は出来る時点でなるべく早くしてください。
9. 揺れが収まり火災が鎮火（または下火）したら戻ること。

□　大雨・台風のとき
前日の天気予報で判断し、当日の午前、午後に上陸する場合は、中止。当日夕方以降に上陸の場合は、要検討。

□　個人情報の取り扱いについて
・　参加者の個人情報リスト（名前、住所、電話番号等）は必要最小限の作成。
・　個人情報リストの持ち出し、貸出しは業務上必要があるスタッフ間に限定し、それ以外には絶対にしないこと。
・　参加者Ａから参加者Ｂの連絡先を教えて欲しいと要望がある場合、案内をせず、個人の間のやり取りをお願いするか、参加者Ｂにコーディネーターが連絡し許可をとってから、参加者Ａに案内すること。
※個人情報保護法に準じます。

□　参加費・材料費の集金について
・　集金袋を用意する。
・　集金をしたら、集金袋に「集金日」「内容」「金額」を記入し、受領印を押し、集金袋を子どもに返し、保護者に渡すように伝えましょう。
・　集金したお金の管理には十分に注意しましょう。

□　保険への加入について
参加者の保険加入の検討をお勧めします。保険加入の一例として「スポーツ安全保険」の紹介をいたします。

【スポーツ安全保険協会ホームページ】　http://www.sportsanzen.org/index.html

スポーツ安全保険は、アマチュアのスポーツ活動、文化活動、ボランティア活動、地域活動、指導活動などを行う社会教育関係団体の構成員を対象としています。

※宗教の一宗一派、政治の一党一派、ビジネスの一社一事業といったことは、この活動には一切持ち込まないという原則を確認しておきましょう。

生命憲章

『生命憲章』は五井平和財団の基本理念です。あらゆる生命が真に調和し合える平和な世界のビジョンを示し、そのような世界を実現するための四原則を提唱しています。当財団が平和教育の柱の一つである「地球っ子広場」を通じて子どもたちに接し、また本委託事業を進める上でも、『生命憲章』の理念がすべての根本となっています。

■前　文

地球は進化する一つの生命体であり、地球上のあらゆる生きとし生けるものは、それぞれがみな、地球生命体を構成する大切な一員であると考えられる。従って、私達人類は、お互いに地球生命共同体の一員としての自覚を持ち、地球の未来に対して、共通の使命と責任を果たしてゆかねばならない。

地球進化の担い手はつまるところ私達一人一人であり、平和の実現は人類一人一人の責任と義務に他ならない。

現在に至るまで、人類の多くは足ることを知らず、有限なる資源と領土をめぐる争いが、世界各地で繰り広げられてきた。その結果として、地球環境に対しても多大なる悪影響をおよぼしてきた。新千年紀を迎え、世界平和実現の成否は、何よりも人類一人一人の意識の目覚めにかかっている。

今や人類すべてがみな自分自身の心の中に、平和と調和の世界を築いていくという、誰一人として免れることも怠ることも出来ない共通の使命を課せられているのである。

そして人類一人一人がこの共通の使命を認識し、お互いに強く結ばれていく時に、真の世界平和は達成されるのである。

今日まで、人類は、権力においても、富においても、名誉においても、また知識や技術や教育においても、それを持てる人、国、組織とそれを持たざる人、国、組織とに分れてきた。そしてそれを与える側と与えられる側、救う側と救われる側とに分れてきた。

「生命憲章」では、それらの二元対立や差別意識を超えて、すべての個人や様々な分野が参加し、まったく新しい理念のもとに平和な世界を築いていく方向を提起するものである。

■原　則

新しい時代を迎え、人類の進むべき方向はすべてに調和した世界である。つまり、すべての個人や国々が自由に個性を発揮しながらも、お互い同士、またあらゆる生きとし生けるものとも調和し合える世界である。そのような世界を実現するための原則は；

1 生命の尊厳

すべての生命を尊重し、愛と調和を基調とした世界。

2 すべての違いの尊重

異なった人種、民族、宗教、文化、伝統、習慣を認め合い、尊重し合い、その多様性をたたえ合い、喜び合える世界。

そして、社会的にも身体的にも、精神的にも、また、あらゆる面において、差別や対立のない世界。

3 大自然への感謝と共生

人類は大自然の恩恵により生かされていることを認識し、動植物をはじめ、すべての生きとし生けるものに対し感謝の心をもって接し、大自然と調和、共生していく世界。

4 精神と物質の調和

物質偏重主義から脱却し、人類の健全なる精神性が開花した、精神文明と物質文明のほどよく調和した世界。物質の豊かさだけでなく、心の豊かさが価値を持つ世界。

■実　行

個人として

従来の国家、民族、宗教が権威と責任をもつ時代から、個の時代へと変わってゆかねばならない。個の時代といっても個人が自己中心的に生きるということではなく、個が自立をし、人類の一員としての意識をもって、それぞれの責任と使命を果たしてゆく時代へと変革させていくことが必要である。

そして個としての最大の使命は、それぞれが自己の中心に愛と調和と感謝の心を築き上げていくことである。

専門分野として

教育、科学、文化、芸術、宗教、思想、政治、経済等、様々な分野がそれぞれの専門知識、技術、能力を最大限に発揮し、平和世界実現に向けて、英知の結集と、協力体制を構築していく。

若者として

20 世紀においては、親が、先生が、社会が、子どもたちを教え、子どもたちは常に教えられる立場にあった。21 世紀は、大人も子どもから純粋性、無邪気、明るさ、英知、直観など子どもの素晴らしさを学びとり、共に高め合う生き方が大切である。

そして、未来に向けて子どもや若者が、平和創造の担い手としての積極的な役割を果たしてゆかねばならない。